



MUSIC SYNTHESIZER

MODX MS

MODX M7

MODX MS

クイックガイド

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

記号表示について

この製品やクイックガイドに表示されている記号には、次のような意味があります。

	注意喚起を示す記号
	禁止を示す記号
	行為を指示する記号

「警告」「注意」「ご注意」について

誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を区分して掲載しています。

 警告	「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
 注意	「傷害を負う可能性が想定される」内容です。
ご注意	「故障、損傷や誤動作、データの損失の発生が想定される」内容です。

警告

電源



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



禁止

雷が鳴っているときは、本製品や電源プラグに触らない。

感電の原因になります。



必ず実行

電源は必ず交流 100V で使用する。

エアコンの電源など交流 200V のものがあります。誤って接続すると、火災、感電、または故障の原因になります。



必ず実行

電源アダプター / 電源コードは、必ず付属のものを使用する。

火災、やけど、または故障の原因になります。



禁止

付属の電源アダプター / 電源コードをほかの製品に使用しない。

火災、やけど、または故障の原因になります。



必ず実行

電源プラグを定期的に確認し、ほこりが付着している場合はきれいに拭き取る。

ショートして火災や感電の原因になります。



必ず実行

電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込む。

差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積したりして火災ややけどの原因になります。



必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。電源を切った状態でも電源プラグをコンセントから抜かないかぎり電源から完全に遮断されません。



禁止

たこ足配線をしない。

音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱したりして火災の原因になります。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



電源プラグを抜く

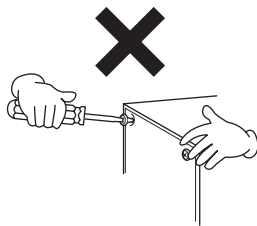
長期間使用しないときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。火災や故障の原因になります。

分解禁止



禁止

本製品を分解したり改造したりしない。感電や火災、けが、または故障の原因になります。本製品の内部には、お客様が修理や交換できる部品はありません。



水に注意



禁止

- 浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところや水がかかるところで使用しない。
- 本製品の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。
- 電源アダプターは、室内専用のため屋外では使用しない。

内部に水などの液体が入ると、火災や感電、または故障の原因になります。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本製品の近くで、火気を使用しない。火災の原因になります。

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 電源コード/プラグが破損した場合
- 製品から異常なおい煙が出た場合
- 製品の内部に水や異物が入った場合
- 使用中に音が出なくなった場合
- 製品に亀裂、破損がある場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末の修理ご相談センターに点検や修理をご依頼ください。

注意

設置



不安定な場所や振動の多い場所に置かない。

本製品が転倒して故障したり、けがをしたりする原因になります。



必ず実行

本製品を移動するときは、必ずすべての接続ケーブルを外した上で行う。

ケーブルをいためたり、お客様やほかの方々が転倒したりするおそれがあります。

接続



必ず実行

ほかの機器と接続する場合は、すべての電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ずすべての機器の音量（ボリューム）を最小にする。

聴覚障害、感電または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴覚障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



禁止

本製品のパネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

火災、感電、故障や動作不良の原因になります。



禁止

本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損したり、お客様やほかの方々がけがをしたりする原因になります。



禁止

大きな音量で長時間使用しない。

聴覚障害の原因になります。特にヘッドホンを使用する場合はご注意ください。万一、聴力低下や耳障りを感じた場合は、専門の医師にご相談ください。



必ず実行

本製品をお手入れするときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電の原因になります。

- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを切った状態(画面表示が消えている)でも微電流が流れています。[⏻](スタンバイ/オン)スイッチが切れているときの消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

(DMI-11)

ご注意

「故障、損傷や誤動作、データの損失の発生が想定される」内容です。以下の内容をよく読んでお使いください。

■ 製品の取り扱いに関する注意

- テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。
- スマートフォン、タブレット端末などのスマートデバイスのアプリと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるためスマートデバイスの機内モードをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
- 直射日光のあたる場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体が変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります。
- 本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体が変色/変質する原因になります。

■ 製品のお手入れに関する注意

- お手入れの際は、乾いた柔らかい布、または水を含ませた柔らかい布を固くしぼってご使用ください。ベンジンやシンナー、アルコール、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質する原因になりますので、使用しないでください。

■ データの保存に関する注意

- 編集したパフォーマンス
編集したパフォーマンスは、保存前に電源を切ると消えてしまいます。オートパワーオフ機能（11ページ）により電源が切れた場合も同様です。
- その他の設定
その他の設定は本製品内に自動的に保存され、電源を切っても消えません。
- 大切なデータを守るために
本製品内に保存（ストア）されたパフォーマンスやその他の設定は、故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なパフォーマンスやその他の設定は、USBフラッシュメモリーやコンピューターなどの外部機器に保存してください（オペレーションマニュアル参照）。データを保存したUSBフラッシュメモリーの万一の事故に備えて、大切なデータは予備のUSBフラッシュメモリーやコンピューターなどの外部機器にバックアップとして保存されることをおすすめします。USBフラッシュメモリーを使う前には、必ず12ページをお読みください。

お知らせ

■ データの著作権に関するお願い

- この製品に搭載されている「コンテンツ」^{*1}の著作権は、ヤマハ（株）もしくはその著作権者に帰属します。私的使用のための複製など著作権法上認められている場合を除いて、権利者に無断で「複製または転用」^{*2}することは禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。なお、製品本来の使用を通して、上記コンテンツを使用した音楽制作や演奏を行い、それらを録音して配布する場合、配布方法が有償、無償を問わずヤマハ（株）の許諾は必要ありません。

*1：「コンテンツ」には、コンピュータープログラム、サウンドデータ、伴奏スタイルデータ、MIDIデータ、WAVEデータ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどを含みます。

*2：「複製または転用」には、この製品に内蔵または同梱されたコンテンツそのものを取り出すこと、もしくは酷似した形態で記録/録音して配布することを含みます。

■ クイックガイドの記載内容に関するお知らせ

- このクイックガイドに掲載されているイラストや画面は、すべて説明のためのものです。
- このクイックガイドに掲載されているイラストや画面は、特に説明のない限り、MODX M6を使用しています。
- MIDIは一般社団法人音楽電子事業協会（AMEI）の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

■ 廃棄に関するお知らせ

本製品を廃棄するときは、地方自治体の条例に従って処理してください。詳しくは、各地方自治体にお問い合わせください。

機種名（品番）、製造番号（シリアルナンバー）、電源条件などの情報は、製品の底面にある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをおすすめします。

機種名

製造番号

(1003-M06 plate bottom ja 01)

はじめに

このたびは、ヤマハ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

MODX Mは、フラグシップシンセサイザー MONTAGE Mが生み出した新しい音表現を継承し、スリムで軽量、持ち運びやすさを兼ね備えたシンセサイザーです。本書をよくお読みになって、この楽器に搭載された機能を十分にご活用ください。また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管してください。

説明書について

この楽器には、以下の説明書が用意されています。

製品に付属

■ クイックガイド（本書）

本機の基本機能について説明しています。

ウェブサイトで提供

ウェブから提供している説明書は、ヤマハのウェブサイトからご覧いただけます。インターネットに接続して以下のウェブサイトを開き、「製品名またはキーワード」テキストボックスにモデル名「MODX M」と入力して「検索」をクリックします。



ヤマハ サポート・お問い合わせ「取扱説明書」

<https://jp.yamaha.com/support/manuals/>

■ オペレーションマニュアル（.pdf）

本機の詳しい操作方法や、内部構造、他の機器との接続方法例について、詳細に説明しています。

■ データリスト（.xlsx、.pdf）

パフォーマンス、ウェーブフォーム、エフェクトタイプ、アルペジオタイプなどの本機内蔵コンテンツのリストや、MIDIインプリメンテーションチャートなどの資料を掲載しています。

付属品について

- 電源アダプター PA-300C × 1
- クイックガイド（兼保証書） × 1
- Cubase AI Download Information（Cubase AIダウンロードについて） × 1
- Expanded Softsynth Plugin for MONTAGE M/MODX M Download Information × 1
- About downloading manuals（マニュアルダウンロードのご案内） × 1
- Welcome カード × 1

ファームウェアの更新について

機能の追加や操作性向上のために、工場出荷時のファームウェアを予告なくアップデートすることがあります。
本機のファームウェアに対応するマニュアルは以下のウェブサイトよりダウンロードいただけます。

ヤマハ サポート・お問い合わせ：<https://jp.yamaha.com/support/>

なお、本機のファームウェアバージョンは [UTILITY] → Settings → System でご確認ください。

本書内の表記

モデル名

本書では、MODX M6、MODX M7、MODX M8をまとめて「MODX M」と表記します。

NOTE

補足説明にはNOTEと表記しています。

目次

安全上のご注意	2
ご注意	5
お知らせ	5
はじめに	6
説明書について	6
製品に付属	6
ウェブサイト提供	6
付属品について	6
ファームウェアの更新について	7
本書内の表記	7
特長	9
Motion Control Synthesis Engine とは	9
持ち運びやすいコンパクトなデザインと高い操作性	9
ご使用前の準備	10
電源の準備	10
スピーカーやヘッドホンの準備	10
電源を入れる / 切る	11
オートパワーオフ機能	11
マスターボリュームを調節する	12
USBフラッシュメモリの取り扱いについて	12
演奏までの流れ	13
パフォーマンスのしくみ	14
ライブセットのしくみ	15
ライブセットのバンク	15
各部の名称と機能	16
トップパネル	16
リアパネル	30
ステータス確認と基本操作	34
ステータス確認	34
画面選択	38
カーソル移動と値の変更	39
画面操作のアイコン	40
文字入力と数値入力	41
演奏する	43
ライブセット画面でパフォーマンスを選ぶ	43
困ったときは	44
工場出荷時の状態に戻す (イニシャライズ オールデータ)	44
仕様	45
索引	46
ソースコード配布について	47
製品登録のご案内	47
保証とアフターサービス	48

特長

MODX Mは、Motion Control Synthesis Engineを搭載したシンセサイザーです。Motion Control Synthesis Engineは、AWM2音源、FM-X音源とAN-X音源をシームレスに組み合わせ、モーションコントロールによる複雑な変化を加えることで、多彩なサウンドづくりができます。従来からある音色の再現だけでなく、まったく新しい音色の創出が可能です。

Motion Control Synthesis Engine とは

3種類の異なる音源方式を組み合わせたハイブリッド音源と、多彩なコントロールソースで複雑な音の連続的な変化を実現するモーションコントロールを組み合わせた、トータル音源システムです。

ハイブリッド音源

AWM2

リアルにサンプリングされたウェーブ（音の素材）をもとにさまざまな音を作る音源方式

FM-X

音のもととなる波形を別の波形で周波数変調させることで、新しい波形を作り出す音源方式

AN-X

シンプルな波形をもとにさまざまな変調をさせて、そこにフィルターをかけることで新しい音色を作る音源方式

モーションコントロール

スーパーノブ

複数パラメーターを同時にコントロールして多次元音変化を生み出すノブ

モーションシーケンサー

あらかじめ設定したコントローラーの動きを再生し、音色をシーケンシャルに変化させる機能

エンベロープフォロワー

入力されたオーディオのテンポに同期する音色変化を生成する機能

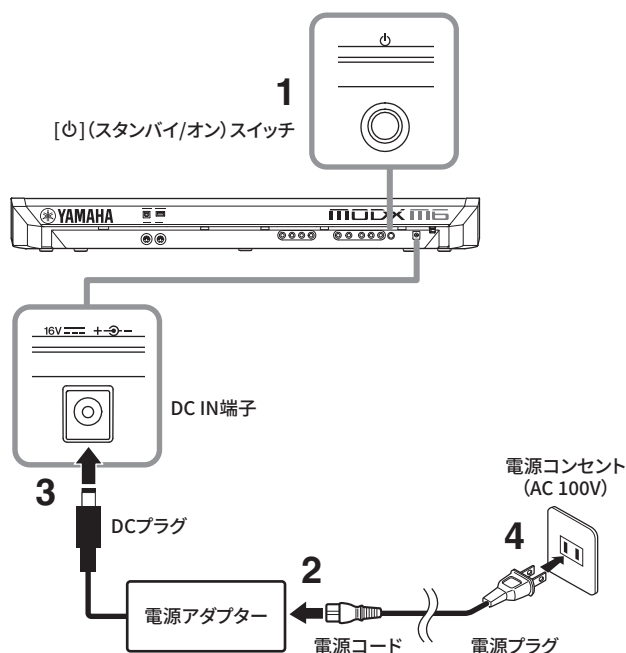
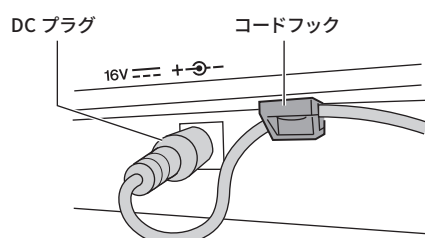
持ち運びやすいコンパクトなデザインと高い操作性

持ち運びを考え、軽量かつコンパクトなデザインを実現しました。また、本格的な弾き心地を体感できる上質な鍵盤と微細な表現を可能にする操作子で、演奏表現の幅を広げます。

ご使用前の準備

電源の準備

1. [⏻] (スタンバイ/オン) スイッチがスタンバイ (■) の状態になっていることを確認します。
2. 付属の電源コードと電源アダプターを接続します。
3. DCプラグのコードを、DC IN 端子の横にあるコードフックに下図のようにセットし、DCプラグをDC IN 端子に接続します。



ご注意

DCプラグのコードをコードフックにセットすることで、誤ってコードを引っ掛けてしまった場合でも、コードが抜けにくくなります。ただし、セットした状態でコードを強く引っ張ったりすると、コード表面が摩擦で傷ついたり、フックが破損したりする可能性があります。

4. 電源プラグを電源コンセントに接続します。



警告

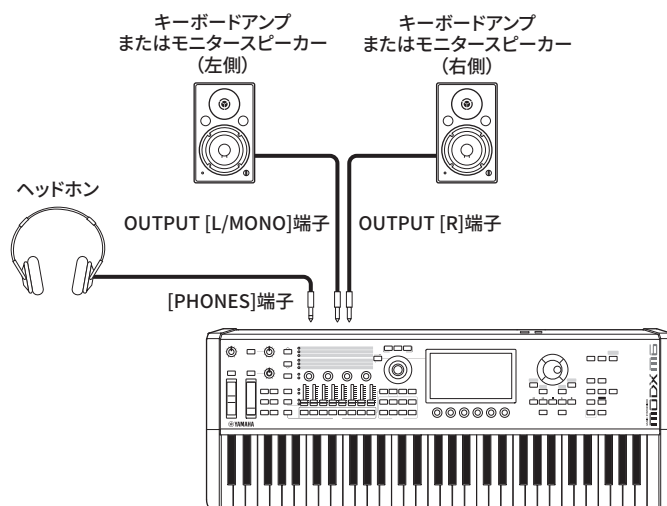
- 電源アダプター / 電源コードは、必ず付属のものをご使用ください。また、付属の電源アダプター / 電源コードをほかの製品に使用しないでください。故障、発熱、火災などの原因になります。
- 本機はコンセントの近くに設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

NOTE

電源アダプター / 電源コードを外すときは、電源を切ってから、逆の手順で行ってください。

スピーカーやヘッドホンの準備

本機の電源を入れる前に、音を鳴らすための準備をします。キーボードアンプまたはモニタースピーカー（いずれも電源を切った状態）、ヘッドホンを図のように接続します。接続の際には、接続する機器をよく確認して、別途ケーブルをご用意ください。



電源を入れる / 切る

電源を入れる/切るときは、本機や接続されているキーボードアンプ、モニタースピーカーのボリュームがすべて0になっていることを確認し、次の順番で操作してください。

■ 電源を入れるとき

ボリュームを0 → 本機をオン (■) (画面が表示され、ボタンが点灯します) → アンプまたはスピーカーをオン

■ 電源を切るとき

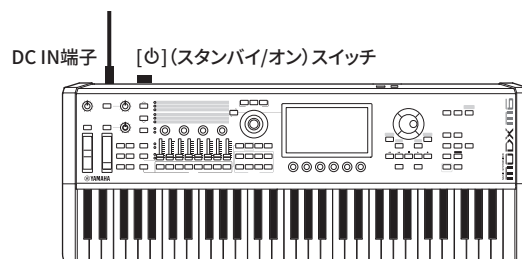
ボリュームを0 → アンプまたはスピーカーをオフ → 本機をスタンバイ (■) (画面が消え、ボタンが消灯します)

本機の[⏻] (スタンバイ/オン) スイッチは、鍵盤側から見てリアパネルのDC IN 端子の右にあります。



警告

電源を切った状態でも微電流が流れています。この楽器を長時間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。



オートパワーオフ機能

オートパワーオフ機能とは、電源の切り忘れによる無駄な電力消費を防ぐため、本機が一定時間操作されないと自動的に電源が切れる機能です。

■ オートパワーオフ機能の設定

オートパワーオフ機能を有効 (オン) にしたり、電源が自動的に切れるまでの時間を変更できたりします。

設定手順	[UTILITY] → Settings → Advanced → Auto Power Off
設定値 (分)	Off (オートパワーオフ機能解除)、5、10、15、30、60、120
初期設定	Off (オートパワーオフ機能解除)

■ オートパワーオフ機能の簡単解除

左端の鍵盤を押しながら電源を入れると、「Auto power off disabled. Energy consumption might increase.」と画面に表示され、オートパワーオフ機能が解除されます。このとき、解除の設定は自動的に保存されます。

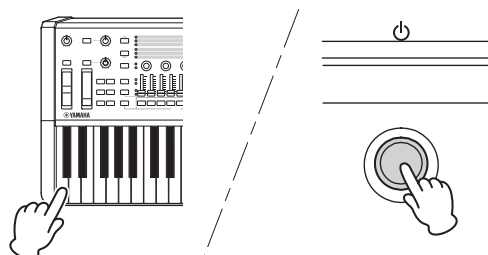
ご注意

オートパワーオフ機能により電源が切れると、保存していないデータは失われます。電源が切れる前に必ずデータを保存してください (オペレーションマニュアル参照)。

- アンプ、スピーカー、コンピューターなどの外部機器を本機に接続したまま一定時間操作しない場合は、外部機器の損傷を防ぐため、クイックガイドの手順に従って外部機器と本機の電源を切ってください。接続した状態で自動的に電源が切れるのを避けたい場合は、オートパワーオフ機能を解除してください。
- 本機のオートパワーオフ機能の設定が Off の場合は、外部に保存したシステムデータを本機にロードしても、システムデータの設定に関わらず本機の設定は Off のままです。本機のオートパワーオフ機能の時間が設定されている場合は、本機にロードしたシステムデータの設定に書き換わります。

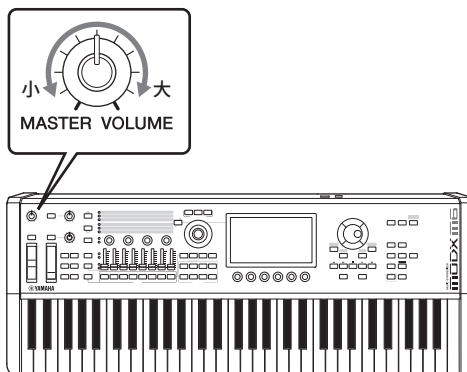
NOTE

- オートパワーオフ機能の設定時間はおよその目安です。
- オートパワーオフ機能で電源が切れたあとに電源を入れなおす場合は、[⏻] (スタンバイ/オン) スイッチを一度スタンバイ位置 (■) に戻してから、再度[⏻] (スタンバイ/オン) スイッチを押してオン (■) にしてください。
- イニシャライズ オールデータを行ったあとは、オートパワーオフ機能の設定が初期値 (Off) に戻るため、必要に応じて再設定してください。



マスターボリュームを調節する

本機のボリュームを [MASTER VOLUME] ノブで最適な音量に調節します。



注意

大きな音量で長時間ヘッドホンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

USB フラッシュメモリーの取り扱いについて

本機にUSBフラッシュメモリーを接続すると、本機で制作したデータをUSBフラッシュメモリーに保存したり、USBフラッシュメモリーのデータを本機で再生したりできます。USBフラッシュメモリーを使う前に、必ず「USB [TO DEVICE] 端子 使用時のご注意」(31ページ)をお読みください。

■ USBフラッシュメモリーのフォーマット

USBフラッシュメモリーは本機でフォーマットすることをおすすめします。他の機器でフォーマットしたUSBフラッシュメモリーは、本機で正しく動作しない場合があります。

ご注意

USBフラッシュメモリーをフォーマットすると、保存されているデータは消去されます。必要なデータが入っていないことを確認してからフォーマットしてください。

NOTE

フォーマットの方法は、オペレーションマニュアルをご参照ください。

■ 誤消去防止

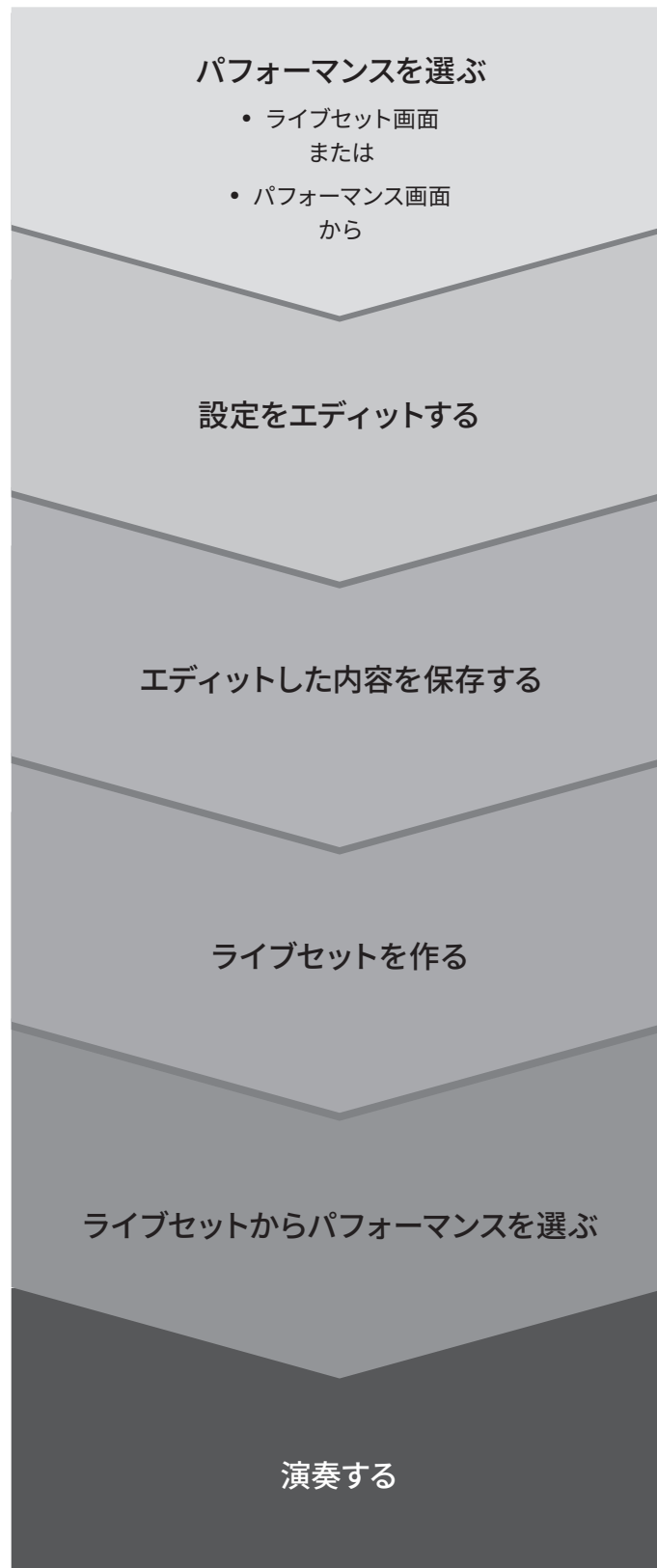
USBフラッシュメモリーには、誤ってデータを消してしまわないよう、ライトプロテクト機能の付いたものがあります。大切なデータが入っている場合は、ライトプロテクトで書き込みができないようにしましょう。逆に、データを保存する場合などは、ご使用の前にお使いのUSBフラッシュメモリーのライトプロテクトが解除されていることをご確認ください。

■ USBフラッシュメモリー接続時に電源を切るには

電源を切る場合は、再生、録音、ファイル操作（保存、コピー、削除、フォーマットなど）によるUSBフラッシュメモリーへのアクセス中でないことを確認してください。USBフラッシュメモリーやデータが壊れるおそれがあります。

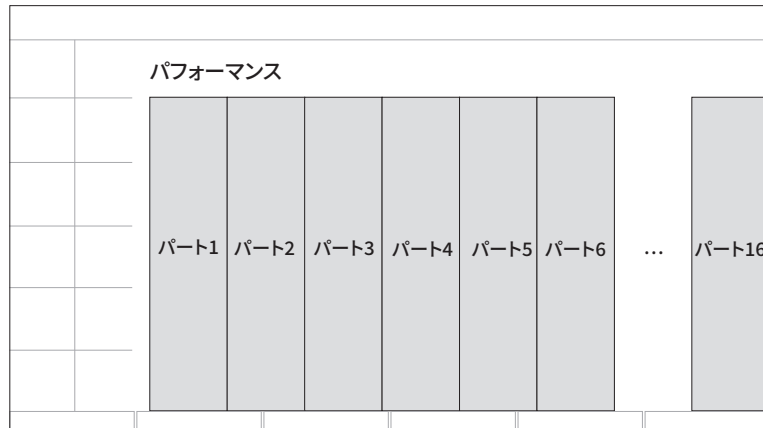
演奏までの流れ

演奏までの流れは次のとおりです。



パフォーマンスのしくみ

MODX Mでは、音色に関する設定を「パフォーマンス」と呼びます。パフォーマンスを1つ選んで演奏します。パフォーマンスは最大16パートで構成されており、各パートには音が1つ割り当てられています。



複数のパートを組み合わせたパフォーマンスは「マルチパートパフォーマンス」、1パートだけのパフォーマンスは「シングルパートパフォーマンス」と呼びます。シングルパートパフォーマンスは、AWM2音源の「ボイス」のように扱うことが可能です。

パートには4種類あります。

■ ノーマルパート (AWM2)

AWM2音源で鳴らすパートです。ピアノ、オルガン、ギター、シンセサイザーなどの楽器音色が割り当てられます。

■ ノーマルパート (FM-X)

FM-X音源で鳴らすパートです。

■ ノーマルパート (AN-X)

AN-X音源で鳴らすパートです。

■ ドラムパート (AWM2)

AWM2音源で鳴らすパートです。打楽器の音色を割り当てられます。リズムパートの演奏に使います。

NOTE

- 初期値を使って最初から音作りをしたい場合には「Init」のパフォーマンスを選びます。
- 本機を16マルチティンバー音源として使いたい場合は「Multi/GM」を使います。16パートすべてを使っているパフォーマンスで、パート10にはドラムが割り当てられています。

パフォーマンスでは、パートの音を選んだあと、スプリットやレイヤーといった鍵盤設定をすると、複数のパートを組み合わせて演奏できます。さらに、エディット画面からパフォーマンスやパートを編集し、モーションコントロールを使う設定にすることで、より複雑な操作が可能になります。

作成したパフォーマンスは、本機内に保存（ストア）するだけでなく、USBフラッシュメモリーにも保存（セーブ）できます。さらに、Soundmondo（音色管理とシェアリングのサービス）を使って、作成したパフォーマンスをバックアップしたり共有したりすることも可能です。

Soundmondo <https://www.yamaha.com/2/soundmondo>

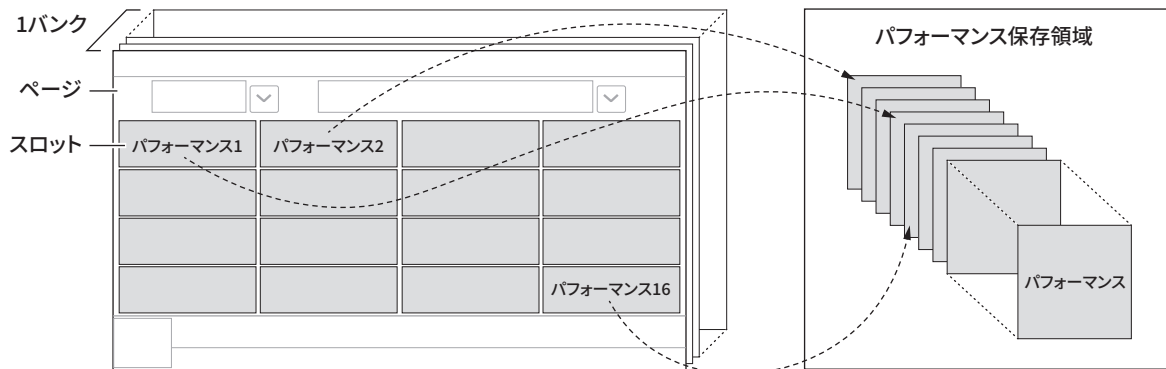
また、コンピューターにインストールしたExpanded Softsynth Plugin for MONTAGE M/MODX Mと組み合わせて使うことで、DAWでの音楽制作で使用する音とライブで使用する音を、本機ハードウェアとソフトウェアの間で共有して活用できます。

ライブセットのしくみ

MODX Mには、作成したパフォーマンスなどを保存し、管理するためのしくみとして、ライブセット機能が装備されています。ライブセット機能を使うと、作成したパフォーマンスだけでなく、演奏時にパフォーマンスと組み合わせて使うMIDIやオーディオなどのファイルも登録できます。

ライブセット画面には、1ページあたり16個のスロットがあり、最大16組の設定を並べて保存できます。たとえば、曲の進行に合わせて、パフォーマンスの音量をスロットごとに変えて登録しておくなどの使いかたができます。

ライブ演奏のときは、スロットを選んでパフォーマンスを切り替えます。



NOTE

各スロットにはパフォーマンス実体へのリンク情報が保存されます。パフォーマンスをエディットし、ストアした場合は、該当パフォーマンスへのリンクを持つすべてのスロットに結果が反映されます。

ライブセットのバンク

ライブセットのページを複数ごとにまとめて、パフォーマンスを管理するのがバンクです。1バンクにつき、16ページのライブセットを管理できます。

バンクには、プリセットバンク、ユーザーバンク、ライブラリーバンクの3種類があります。

■ プリセットバンク

内蔵されたパフォーマンス（プリセットパフォーマンス）が登録されているバンクです。

プリセットバンクでエディットしたパフォーマンスは、プリセットバンクには保存できません。ユーザーバンクに保存されます。

NOTE

内蔵パフォーマンスの一覧は「データリスト」をご参照ください。

■ ユーザーバンク

自分がエディットしたライブセットが登録されているバンクです。初期状態では何も登録されていません。

8バンク（128ページ分）あり、合計2,048個のパフォーマンスを登録できます。

ライブ演奏の曲順に並べておくことができます。

■ ライブラリーバンク

ライブラリーファイルに含まれるパフォーマンスが登録されたバンクです。初期状態では何も登録されていません。

1つのバンクに1つのライブラリーファイルを登録できます。

ライブラリーファイルは、ヤマハウェブサイトなどからダウンロードできます。

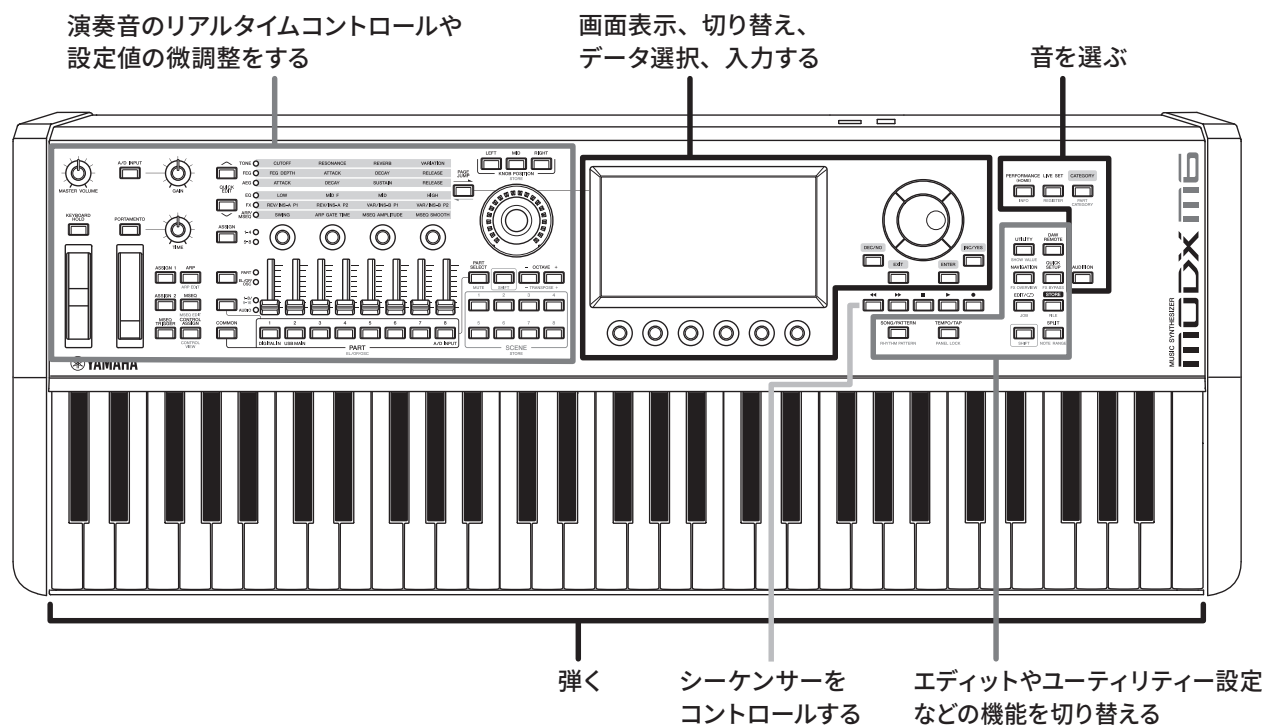
初めて本機を起動したときにはプリセットバンクのライブセット画面が表示されます。

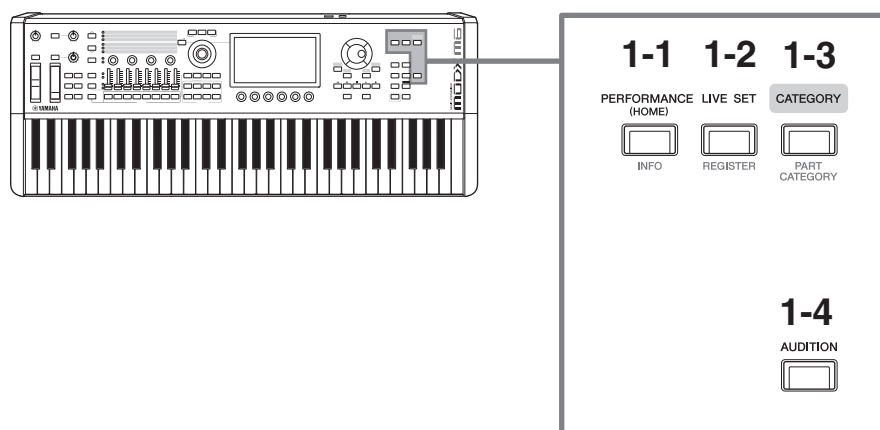
起動時の画面は、ライブセット画面またはパフォーマンス画面に設定できます。([UTILITY]→System)

各部の名称と機能

各部の名称と機能の概要を説明します。

トップパネル





1-1 [PERFORMANCE (HOME)] ボタン (INFO)

パフォーマンス画面が表示されます。ボタンを押すたびにパフォーマンスのビュー（画面）が切り替わります。

パフォーマンス画面で、[SHIFT] ボタンを押しながら [PERFORMANCE (HOME)] ボタンを押すと、インフォメーションの確認画面（INFO 画面）が開きます。

1-2 [LIVE SET] ボタン (REGISTER)

ライブセット画面が表示されます。ボタンを押すたびにライブセットのバンクが切り替わります。

[LIVE SET] ボタンを押してから、画面に直接タッチすることで、表示されているライブセットページのスロットを選びます。

[SHIFT] ボタンを押しながら [LIVE SET] ボタンを押すと、現在選択されているパフォーマンスをライブセットに登録する画面が開きます。よく使うパフォーマンスをライブセットに登録しておけば、ライブ中に素早くパフォーマンスを切り替えできます。

1-3 [CATEGORY] ボタン (PART CATEGORY)

カテゴリーサーチ機能呼び出すボタンです。ボタンを押すたびにパフォーマンスのバンクが切り替わります。

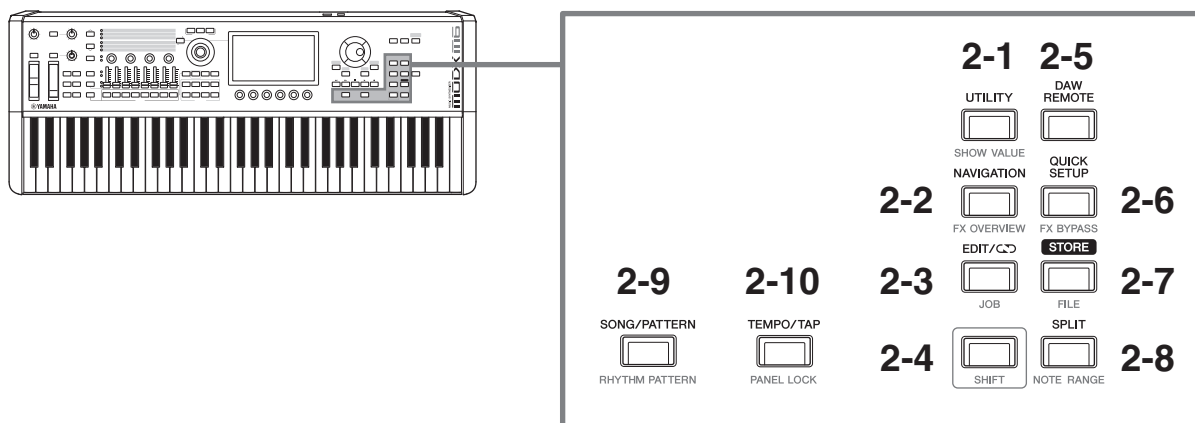
パフォーマンス画面で [CATEGORY] ボタンを押すと、パフォーマンスカテゴリーサーチ画面が開き、パフォーマンスを選択できます。

パートにカーソルがある場合は、[SHIFT] ボタンを押しながら [CATEGORY] ボタンを押すことで、パートカテゴリーサーチ画面が開きます。

1-4 [AUDITION] ボタン

パフォーマンス画面、ライブセット画面、カテゴリーサーチ画面で [AUDITION] ボタンを押すと、選択中のパフォーマンスを使ったオーディションフレーズの再生と停止ができます。

エディットやユーティリティー設定などの機能を切り替える



2-1 [UTILITY] ボタン (SHOW VALUE)

本機全体の設定を行うユーティリティー画面が表示されます。

[SHIFT] ボタンを押しながら [UTILITY] ボタンを押すと、グラフィックなどで表示されていない設定値がある場合は、その設定値が表示されます。

2-2 [NAVIGATION] ボタン (FX OVERVIEW)

パートの音源の構造に合わせた、設定画面の地図が表示されます。地図の中からパラメーターを1つ選ぶと、そのパラメーターの詳細設定画面が開きます。

[SHIFT] ボタンを押しながら [NAVIGATION] ボタンを押すと、エフェクト概要の確認画面が表示されます。

2-3 [EDIT/C] ボタン (JOB)

パフォーマンス (14 ページ)、ライブセット (15 ページ)、パターン (オペレーションマニュアル参照) の編集画面が表示されます。

パフォーマンスのパラメーター編集集中にボタンを押すと、コンペア機能が使えます。

コンペア機能を使うと、編集前の音色と編集後の音色を聞き比べて確認できます。

エディット画面が表示された状態で、[EDIT/C] ボタンを押します。[EDIT/C] ボタンが点滅し、一時的に編集前の状態に戻ります。[EDIT/C] ボタンをもう一度押すと、編集後の状態に戻ります。

[SHIFT] ボタンを押しながら [EDIT/C] ボタンを押すと、ジョブの設定画面 (JOB 画面) が表示されます。

2-4 [SHIFT] ボタン

他のボタンと組み合わせると、ボタンの下に赤で印字された機能を呼び出せます。

その他の機能については、オペレーションマニュアルをご参照ください。

2-5 [DAW REMOTE] ボタン

DAW Remote 画面が表示されます。

2-6 [QUICK SETUP] ボタン (FX BYPASS)

ユーティリティーの Quick Setup 画面が表示されます。

[SHIFT] ボタンを押しながら [QUICK SETUP] ボタンを押すと、エフェクトのバイパス設定画面 (Effect Switch 画面) が表示されます。

2-7 [STORE] ボタン (FILE)

ストア画面が表示されます。ストア画面では、新規パフォーマンスとして名前を付けて保存するか、すでに保存されているパフォーマンスに上書き保存するかを選びます。

[SHIFT] ボタンを押しながら [STORE] ボタンを押すと、ファイル設定画面 (FILE 画面) が表示されます。

2-8 [SPLIT] ボタン (NOTE RANGE)

パフォーマンスの Split Job 画面が表示されます。

[SHIFT] ボタンを押しながら [SPLIT] ボタンを押すと、ノートレンジの設定画面 (NOTE RANGE 画面) が表示されます。

2-9 [SONG/PATTERN] ボタン (RHYTHM PATTERN)

パフォーマンスの Play/Rec 画面が表示されます。

[SHIFT] ボタンを押しながら [SONG/PATTERN] ボタンを押すと、リズムパターンの設定画面 (RHYTHM PATTERN 画面) が表示されます。

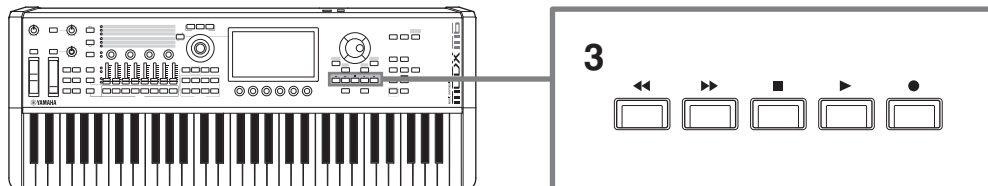
2-10 [TEMPO/TAP] ボタン (PANEL LOCK)

ユーティリティのテンポセッティング画面が表示されます。

[SHIFT] ボタンを押しながら [TEMPO/TAP] ボタンを押すと、パネルロックされ、トップパネルのボタンやタッチパネルの操作が無効になります。

再度、[SHIFT] ボタンを押しながら [TEMPO/TAP] ボタンを押すと、パネルロックが解除されます。

シーケンサーをコントロールする



3 シーケンサートランスポートボタン

パターン、ソング、オーディオのシーケンスデータの再生や録音をコントロールします。

[◀◀] (バック) ボタン

ソングの再生位置を1小節ずつ戻します。

[▶▶] (フォワード) ボタン

ソングの再生位置を1小節ずつ進めます。

[■] (ストップ) ボタン

ソングの再生やレコーディングを止めます。停止中にもう一度押すと、再生位置が先頭に戻ります。

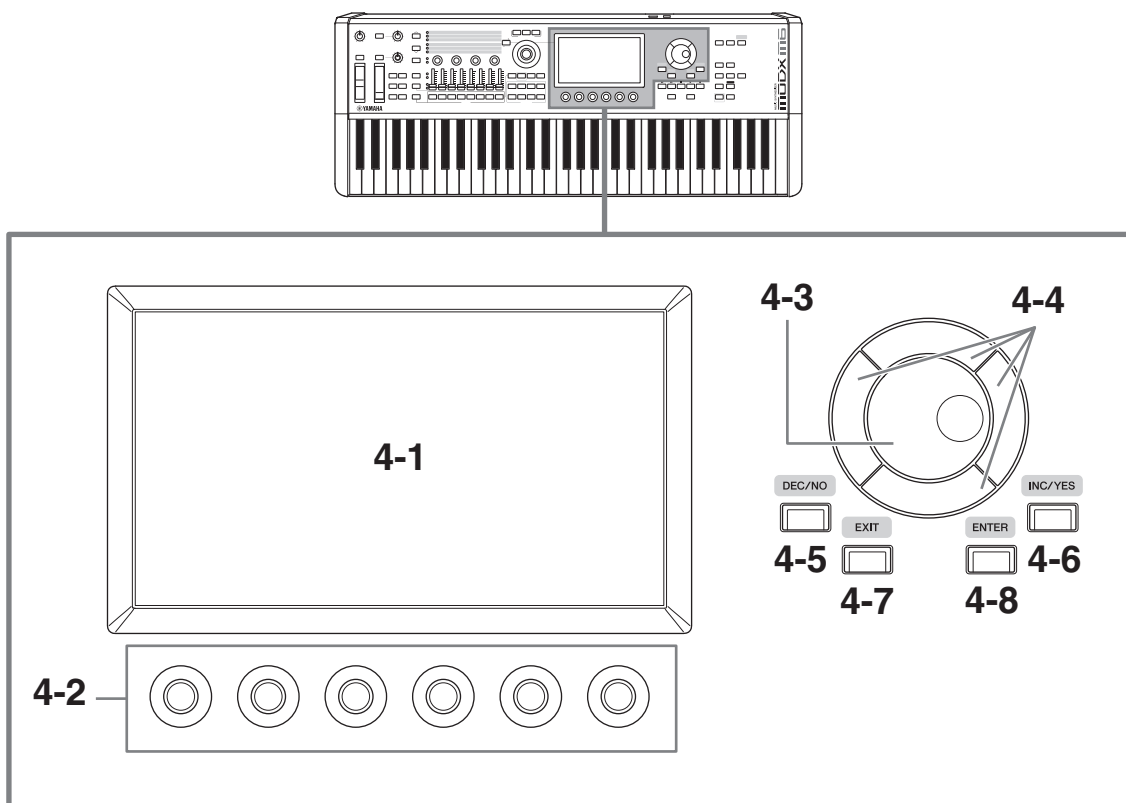
鍵盤から指を離しても再生され続けるアルペジオ (アルペジオ ホールド スイッチがオン状態) を止めることもできます。

[●] (レコード) ボタン

レコーディング画面が表示されます。レコーディング画面で [●] (レコード) ボタンを押してレコードセットアップ画面に切り替えると、ボタンが点滅します。[▶] (プレイ) ボタンを押すと録音が始まり、ボタンが点灯します。

[▶] (プレイ) ボタン

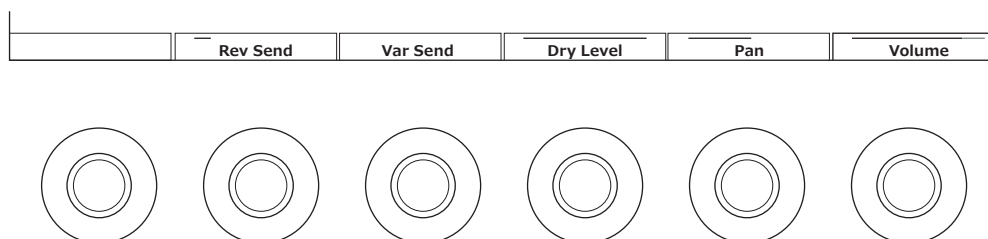
ソングの再生やレコーディングを開始します。再生やレコーディングを開始すると、テンポに合わせてボタンが点滅します。オーディオのときはボタンが点灯します。



4-1 LCD (タッチパネル)

さまざまな情報が表示されます。画面をタッチすることで表示内容を操作できます。
カーソルボタン、データダイヤル、ディスプレイノブなどを使ってカーソルを移動させ、値を変えることもできます。
詳しくは、「ステータス確認と基本操作」(34 ページ) をご覧ください。

4-2 ディスプレイノブ



画面で選択されている段のパラメーターを操作できます。

画面下部にパラメーターが表示され、ノブを動かすことで設定を変更できます。

4-3 データダイヤル

画面のカーソル位置の値を、変更するときに使います。

設定レンジの大きいパラメーター値は、ダイヤルを速く回すことで、値の変化量が大きくなります。

4-4 カーソルボタン

画面のカーソルを上下左右に移動します。

4-5 [DEC/NO] ボタン

画面のカーソル位置の値を、1つずつ減らす（DEC = decrement）ことができます。

ストアやジョブの中止（NO）にも使います。

設定レンジの大きいパラメーター値は、[SHIFT] ボタンを押しながら [DEC/NO] ボタンを押すことで、値を 10 ずつ減らすことができます。

4-6 [INC/YES] ボタン

画面のカーソル位置の値を、1つずつ増やす（INC = increment）ことができます。

ストアやジョブの確認（YES）にも使います。

設定レンジの大きいパラメーター値は、[SHIFT] ボタンを押しながら [INC/YES] ボタンを押すことで、値を 10 ずつ増やすことができます。

4-7 [EXIT] ボタン

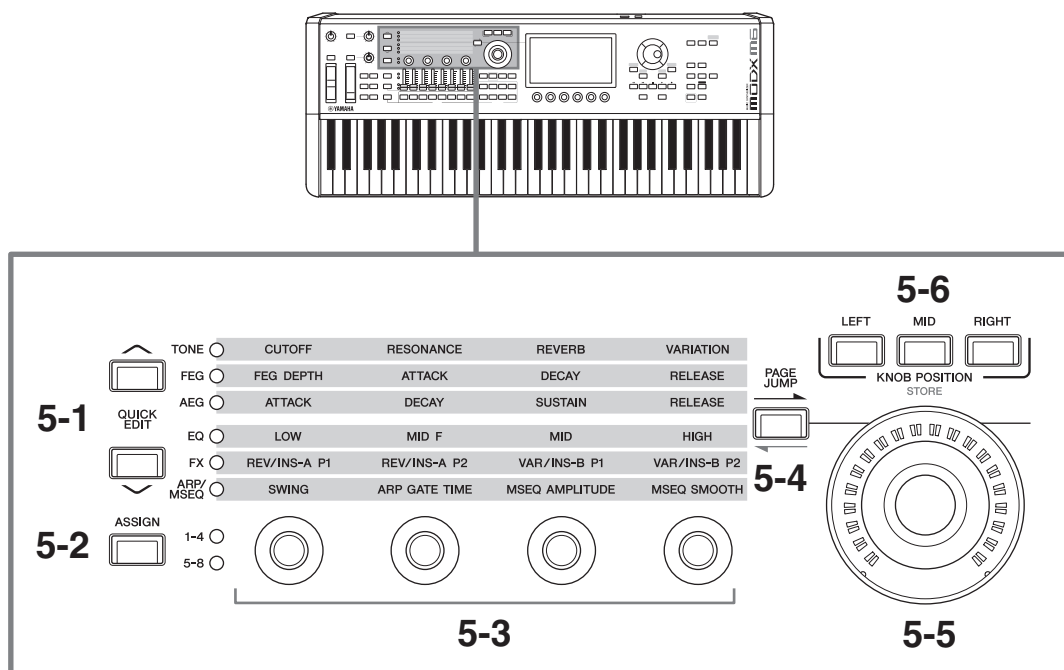
本機の画面に表示される機能は階層構造になっています。1つ上の階層の画面に戻るときに、[EXIT] ボタンを使います。

パフォーマンス画面でホーム画面以外が表示されているときには、[EXIT] ボタンでホーム画面に移動できます。

4-8 [ENTER] ボタン

選択した項目の画面を呼び出すときに使います。ストアやジョブの確認（YES）にも使います。

演奏音のリアルタイムコントロールや設定値の微調整をする



5-1 [QUICK EDIT] ボタン

ノブ1～4 (5～8) を使ってコントロールするパラメーターを切り替えます。
ランプが点灯している段のパラメーターをノブ1～4 (5～8) でコントロールできます。

[QUICK EDIT] ボタンで切り替えられるパラメーター

表示	説明
TONE	音色設定に関するパラメーター
FEG	フィルターエンベロープジェネレーター設定に関するパラメーター
AEG	アンプリチュードエンベロープジェネレーター設定に関するパラメーター
EQ	イコライザー設定に関するパラメーター
FX	エフェクト設定に関するパラメーター
ARP/MSEQ	アルペジオやモーションシーケンサーの再生に関するパラメーター

パフォーマンス全体のパラメーターをコントロールする場合は、パフォーマンス画面（ホーム画面）でパフォーマンス名を選択するか、[COMMON] ボタンを押します。

[QUICK EDIT] ボタンでコントロールしたいパラメーターに切り替え、ノブ1～4 (5～8) を操作します。

特定のパートのパラメーターをコントロールする場合は、パフォーマンス画面（ホーム画面）でパートをタップするか、[PART SELECT] ボタンを押したあとに、PART ボタンを押します。

[QUICK EDIT] ボタンでコントロールしたいパラメーターに切り替え、ノブ1～4 (5～8) を操作します。

5-2 [ASSIGN] ボタン

ノブを Assign1～4 として使うか、Assign5～8 として使うかを切り替えます。

5-3 ノブ 1 ～ 4 (5 ～ 8)

4つのノブを回すことで、演奏中のパートの音色やアルペジオ再生、モーションシーケンサーに関する設定など、さまざまなパラメーターをリアルタイムでコントロールできます。

[ASSIGN] ボタンがオンのときは、ノブ 1 ～ 4 (5 ～ 8) がアサインブルノブ(自由に機能を割り当てることができるノブ)として機能します。

5-4 [PAGE JUMP] ボタン

ボタンを押すと、[QUICK EDIT] ボタンで選択中のパラメーターが、画面に表示されます。

[SHIFT] ボタンを押しながら [PAGE JUMP] ボタンを押すと、現在画面に表示されているパラメーターに合わせて、[QUICK EDIT] ボタンで切り替えられるパラメーターが変更され、ノブ 1 ～ 4 (5 ～ 8) でコントロールできます。

5-5 スーパーノブ

ノブ 1 ～ 4 (5 ～ 8) に割り当てられたパラメーター (Assign 1 ～ 8) を同時にコントロールできます。

フットコントローラー (FC7) を使い、足元でスーパーノブをコントロールすることもできます。

スーパーノブでコントロールする値や Assign 1 ～ 8 の機能の設定方法、フットコントローラーを使った設定については、オペレーションマニュアルをご参照ください。

5-6 KNOB POSITION ボタン

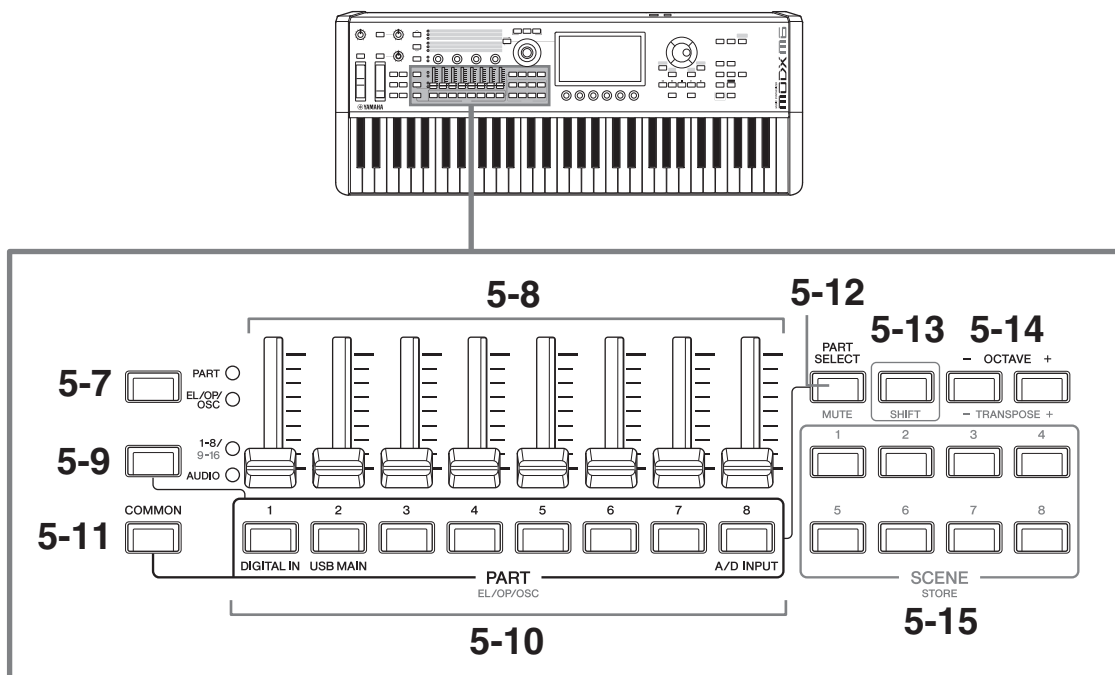
ボタンを押すと、保存されたスーパーノブの設定値に切り替わります。

ノブ 1 ～ 4 (5 ～ 8) を使ってパラメーターを調節したあと、[SHIFT] ボタンを押しながら KNOB POSITION ボタンのいずれかを押すと、選択したボタンに設定値を保存できます。

各ボタンに保存された設定値は、[PERFORMANCE (HOME)] → Motion Control → Super Knobで確認できます。

[LEFT] ボタン	スーパーノブを一番左 (最小値) へ動かしたときの設定値
[MID] ボタン	スーパーノブを中央 (中央値) にしたときの設定値 中央値は、ノブの中央以外の位置にも変更できます。 NOTE [MID] ボタンは、Super Knob Mid Position がオフ以外に設定されているときだけ有効です。
[RIGHT] ボタン	スーパーノブを一番右 (最大値) へ動かしたときの設定値

各ボタンに異なる設定値を保存することで、モーフィングができます。詳細はオペレーションマニュアルをご参照ください。



5-7 スライダーファンクション [PART]/[EL/OP/OSC] ボタン

コントロールスライダーをパートボリューム調節に使うか、エレメント、オペレーター、オシレーター、ドラムキーのレベル調節に使うかを選びます。ボタンを押すたびにPARTとEL/OP/OSCが切り替わります。

5-8 コントロールスライダー 1 ～ 8

16個のパート (1 ～ 8/9 ～ 16) のボリューム、ノーマルパート (AWM2) を構成する8つのエレメント、ノーマルパート (FM-X) のオペレーター、ノーマルパート (AN-X) のオシレーター、ドラムパートのキーのボリュームをリアルタイムでコントロールします。

スライダーファンクション [PART]/[EL/OP/OSC] ボタンでEL/OP/OSCを選んだ場合は、PART ボタンで選んだパートのエレメント、オペレーター、オシレーター、ドラムキーのレベル調節ができます。

NOTE

- コントロールスライダーがすべて0になっている場合は、本機の音が鳴らない可能性があります。鍵盤を弾いても音が鳴らない場合や、ソングを再生させても音が鳴らない場合などは、スライダーの位置を変えてみてください。
- [MASTER VOLUME] ノブでは、本機から出力されるオーディオ音声のボリュームを調節します。それに対して、コントロールスライダーではパートのエレメント、キー、オペレーターやパフォーマンスの各パートのボリュームを、パラメーターの設定値として変更することになります。したがって、変更された値は、パフォーマンスデータとして保存 (ストア) できます。

5-9 パートグループ [1-8/9-16]/[AUDIO] ボタン

PART ボタンをパート1 ～ 16に使うか、AUDIOに使うかを選びます。ボタンを押すたびに1-8/9-16とAUDIOが切り替わります。

[SHIFT] ボタンを押しながらパートグループ [1-8/9-16]/[AUDIO] ボタンを押すと、PART ボタンで9-16の切り替えができます。1-8/9-16のランプが点灯しているときはPARTボタンがパート1 ～ 8に、1-8/9-16のランプが点滅しているときはPARTボタンがパート9 ～ 16に設定されています。

5-10 PART ボタン (EL/OP/OSC)

パートグループ [1-8/9-16]/[AUDIO] ボタンで 1-8/9-16 に設定されている場合は、PART ボタンでパート 1 ～ 8 またはパート 9 ～ 16 を選べます。

パートグループ [1-8/9-16]/[AUDIO] ボタンで AUDIO に設定されている場合は、これらのボタンで DIGITAL IN、USB MAIN、A/D INPUT を選べます。

[SHIFT] ボタンを押しながら PART ボタンを押すと、Element1 ～ 8、Operator1 ～ 8、Oscillator1 ～ 3、Noise を選べます。

5-11 [COMMON] ボタン

パート、エレメント、オペレーター、オシレーターの COMMON に切り替えます。

5-12 [PART SELECT] ボタン (MUTE)

PART ボタンが選択可能な状態のときに点灯します。

[SHIFT] ボタンを押しながら [PART SELECT] ボタンを押すと、PART ボタンでパートのミュート オンオフが切り替えられます。

また、[SHIFT] ボタンを押しながら [PART SELECT] ボタンを押したあと、[SHIFT] ボタンを押しながら PART ボタンを押すことで、PART ボタンでエレメント、オペレーター、オシレーターのミュート オンオフが切り替えられます。パートのミュートがオンのときは、画面の Mute ボタンや M アイコンでも確認できます。

5-13 [SHIFT] ボタン

他のボタンと組み合わせると、ボタンの下に赤で印字された機能呼び出すことができます。
その他の機能については、オペレーションマニュアルをご参照ください。

5-14 OCTAVE ボタン (TRANSPOSE)

OCTAVE ボタンを押すたびに、鍵域が 1 オクターブ単位で動きます。

オクターブが変更されているときは、OCTAVE ボタンが点灯または点滅します。2 つのボタンを同時に押すと、標準 (0) に戻ります。

[SHIFT] ボタンを押しながら OCTAVE ボタンを押すと、トランスポーズが可能です。OCTAVE ボタンを押すたびに、鍵盤のピッチが半音単位で上下します。

トランスポーズしているときは、[SHIFT] ボタンを押すと OCTAVE ボタンが点灯します。[SHIFT] ボタンを押しながら 2 つのボタンを同時に押すと、標準 (0) に戻ります。

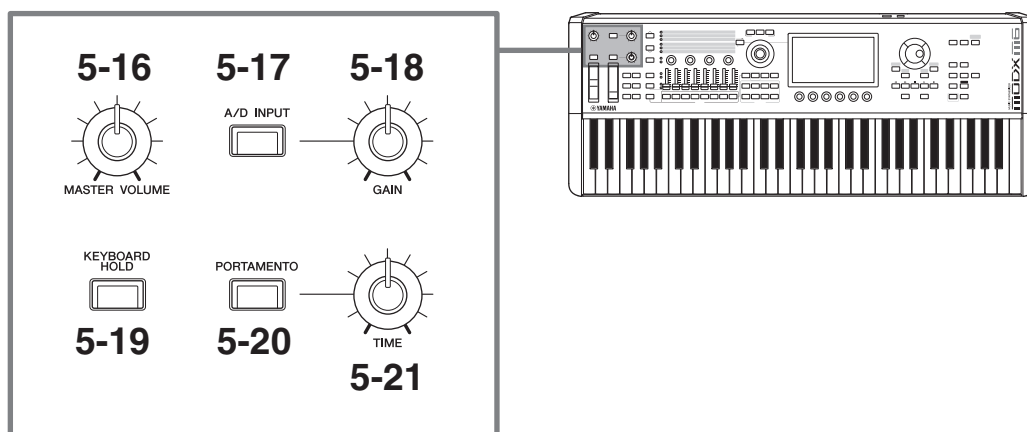
5-15 SCENE ボタン (STORE)

各ボタンにパートのパラメーター値やミュート、ミキシングの設定の一部などを、シーンとして記録できます。
選択されているボタンは点灯、情報が記録されているボタンは半点灯、情報が何も記録されていないボタンは消灯します。

[SHIFT] ボタンを押しながら SCENE ボタンを押すと、編集したシーン設定が保存できます。

ご注意

シーン設定を保存 (ストア) せず、別のシーンに切り替えたり電源を切ったりすると、シーン設定は消えてしまいます。



5-16 [MASTER VOLUME] ノブ

マスターボリュームを調節します。

5-17 [A/D INPUT] ボタン

A/D INPUT 端子からの入力を有効にするか無効にするかを切り替えます。

[SHIFT] ボタンを押しながら [A/D INPUT] ボタンを押すと、A/D INPUT 端子から入力されたオーディオ信号のミキシング画面が表示されます。

5-18 A/D INPUT [GAIN] ノブ

A/D INPUT 端子から入力されたオーディオ信号のゲインを調節します。

NOTE

A/D INPUT 端子に接続する機器の出力レベルに応じて、[UTILITY] → Settings → Audio I/O → A/D Input の設定を変える必要があります。マイクなどの出力レベルの低い機器を接続した場合は Mic (マイク) に、オーディオ機器や電子楽器などの出力レベルの高い機器を接続した場合は Line (ライン) に設定します。

その他については以下の手順で画面を開き、設定を調節します。

A/D インプット部のボリュームやパン、エフェクトへ送る量

- [PERFORMANCE (HOME)] → Mixing
 - [EDIT/↶] → Audio In → Mixing
 - [NAVIGATION] → [COMMON] → A/D Input
- または
- [COMMON] → [NAVIGATION] → A/D Input
 - パートグループ [1-8/9-16]/[AUDIO] を AUDIO にしてから PART ボタン 8 (A/D INPUT)

A/D INPUT 端子からのオーディオ信号をエフェクト部のどのエフェクトに送るか

- [EDIT/↶] → Audio In → Routing

5-19 [KEYBOARD HOLD] ボタン

ボタンをオンにしておくと、サステインペダルを使わなくても演奏にサステインをかけられます。コードチェンジしても次の音が混ざらないよう、自動で調節されます。

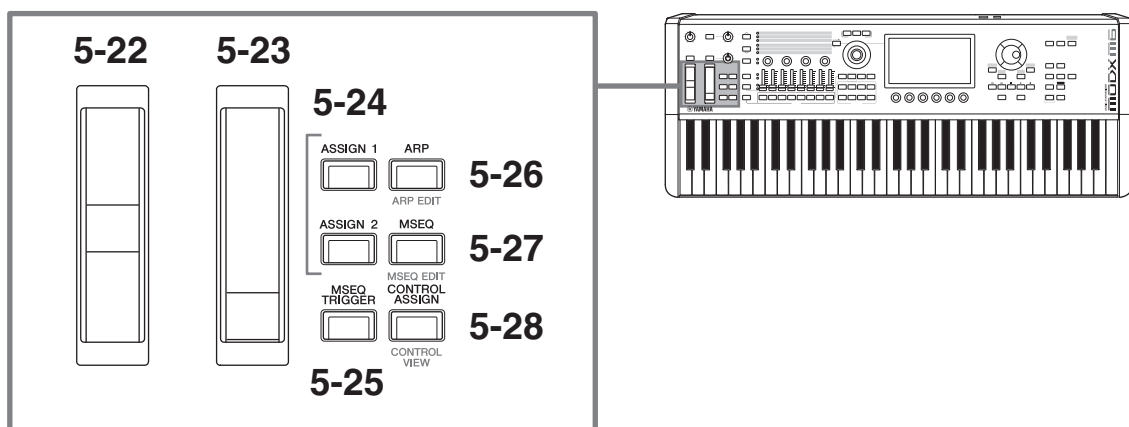
5-20 [PORTAMENTO] ボタン

ポルタメントのオンオフを切り替えます。ポルタメントとは、最初に弾いた鍵盤から次に弾いた鍵盤までを連続的に変化させる機能です。

[SHIFT] ボタンを押しながら [PORTAMENTO] ボタンを押すと、ポルタメントの設定画面が表示されます。

5-21 PORTAMENTO [TIME] ノブ

ポルタメントタイムを調節します。



5-22 ピッチベンドホイール

ピッチベンド効果のアップダウンをコントロールします。ピッチが変化する幅（ピッチベンドレンジ）は、パートエディット → General/Pitch → Pitchで設定します。

ピッチベンドホイールにピッチベンド以外の機能をパートごとに割り当てるには、パートエディット → Mod/Control → Control Assignで設定します。

5-23 モジュレーションホイール

モジュレーション効果をコントロールします。モジュレーションホイールの機能をパートごとに割り当てるには、パートエディット → Mod/Control → Control Assignを設定します。

5-24 [ASSIGN 1] ボタン、[ASSIGN 2] ボタン

より多彩な表現を実現するために、さまざまな機能を割り当てて使うボタンです。

パートごとに機能を割り当てるには、パートエディット → Mod/Control → Control Assignで設定します。

XA 機能（生楽器に近い自然な音を出したり、シンセ系の音色での新たな演奏表現を創り出したりする機能）を使って発音するエレメントをコントロールするには、エレメントエディット → Osc/Tune → XA Controlで設定できます。

[SHIFT] ボタンを押しながら [ASSIGN 1] ボタンまたは [ASSIGN 2] ボタンを押すと、動作モードの設定画面が表示されます。

5-25 [MSEQ TRIGGER] ボタン

[MSEQ] ボタンと Motion Seq の Trigger がオンのときに、[MSEQ TRIGGER] ボタンを押すとモーションシーケンスが再生されます。

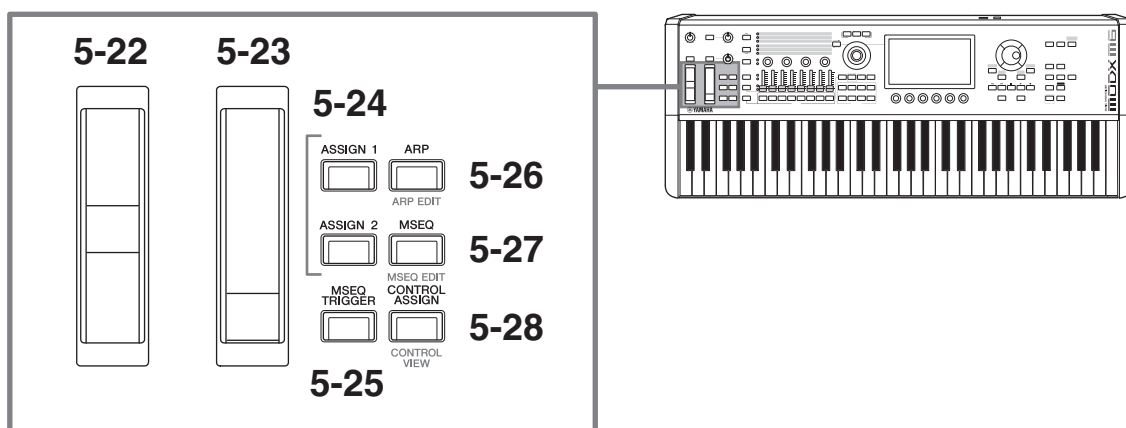
5-26 [ARP] ボタン (ARP EDIT)

アルペジオ再生のオンオフを切り替えます。

アルペジオとは、鍵盤を押さえるだけで、さまざまなフレーズやバックギングパターンが自動的に演奏される機能です。分散和音の自動演奏など、鍵盤演奏中の補助としてだけでなく、楽曲制作でバックギングフレーズを作成するためのツールとしても活用できます。

パートのアルペジオスイッチがオフの場合は、[ARP] ボタンをオンにしても、そのパートでアルペジオは再生されません。

[SHIFT] ボタンを押しながら [ARP] ボタンを押すと、アルペジオの設定画面（ARP EDIT 画面）が表示されます。



5-27 [MSEQ] ボタン (MSEQ EDIT)

モーションシーケンサーのオンオフを切り替えます。

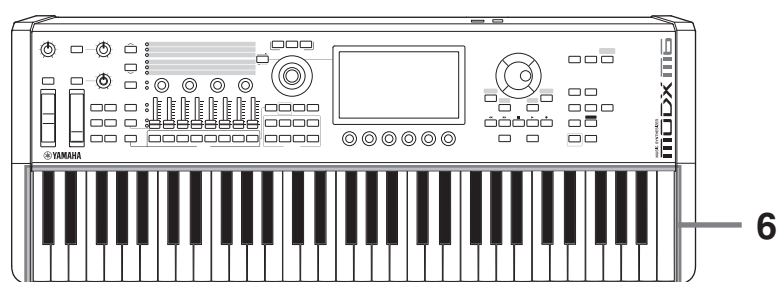
パートやレーンのモーションシーケンサースイッチがオフの場合は、[MSEQ] ボタンをオンにしても、そのパートでモーションシーケンスは再生されません。

[SHIFT] ボタンを押しながら [MSEQ] ボタンを押すと、モーションシーケンサーの設定画面 (MSEQ EDIT 画面) が表示されます。

5-28 [CONTROL ASSIGN] ボタン (CONTROL VIEW)

コントローラーに割り当て可能なパラメーターを画面上で選択している場合、[CONTROL ASSIGN] ボタンを押すと、CONTROL ASSIGN 画面が表示されます。このときにコントローラーを操作すると、選択しているパラメーターが、そのコントローラーに割り当てられます。

[SHIFT] ボタンを押しながら [CONTROL ASSIGN] ボタンを押すと、CONTROL VIEW 画面が表示されます。このときにコントローラーを操作すると、Control Assign 画面が開き、そのコントローラーに割り当てられている設定を確認できます。

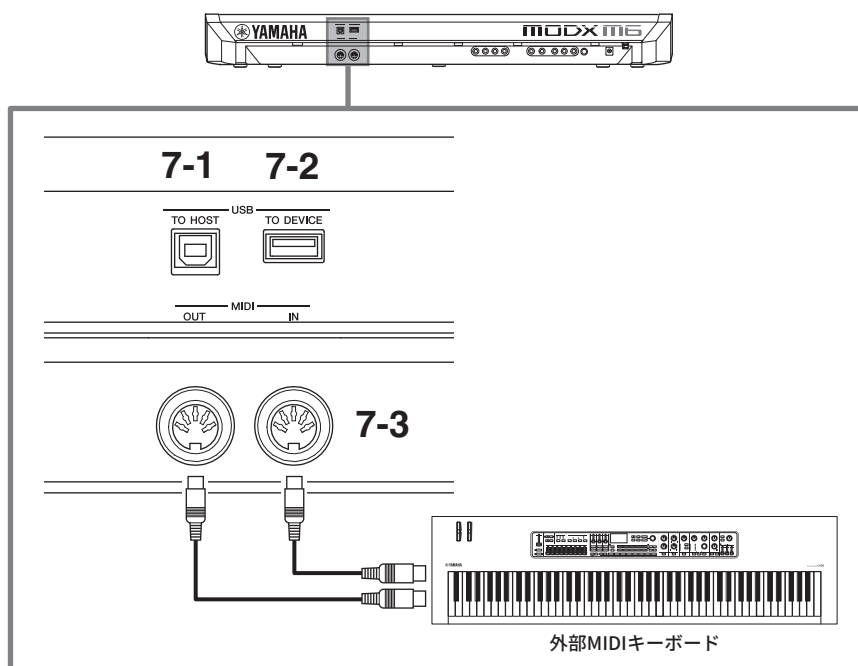


6 鍵盤

MODX M6は61鍵、MODX M7は76鍵、MODX M8は88鍵の鍵盤が搭載されています。

アコースティックピアノのように、弾き方の強弱でパフォーマンスの音量や音色をコントロールできるイニシャルタッチが搭載されています。

接続する



7-1 USB [TO HOST] 端子

USBケーブルを使って、コンピューターのUSB端子に接続します。これにより、コンピューターと本機とでMIDIデータやオーディオデータの送受信ができます。MIDIケーブルでの送受信と違い、USBケーブルではポート信号を扱えます。本機で扱えるポートについてはオペレーションマニュアルをご参照ください。

NOTE

オーディオデータの送信は、サンプリング周波数44.1 kHz時、最大10チャンネル(ステレオ5チャンネル)です。オーディオデータの受信は、最大4チャンネル(ステレオ2チャンネル)です。

7-2 USB [TO DEVICE] 端子

USBフラッシュメモリーやUSB MIDIキーボードを接続します。

USBフラッシュメモリーを接続した場合は、本機で制作したデータをUSBフラッシュメモリーに保存(セーブ)したり、USBフラッシュメモリーから本機へデータを読み込んだり(ロード)できます。USBフラッシュメモリーと本機とのデータのやりとりは、[UTILITY] → Contents → Save (またはLoad) で設定します。

USB MIDIキーボードを接続した場合は、そのUSB MIDIキーボードの仕様に応じて、本機に装備されている鍵盤と同じように扱えます。詳細はオペレーションマニュアルをご参照ください。

7-3 MIDI 端子

MIDIケーブルを使って、外部MIDI機器を接続します。本機から外部MIDI機器をコントロールしたり、外部MIDI機器から本機の音源部を鳴らしたりできます。

MIDI [OUT] 端子は、MIDIスルー端子としても使用できます。

[UTILITY] → Settings → MIDI I/O → MIDI Thru から設定できます。ただし、MIDI ThruはMIDI IN/OUTがMIDIのときのみ表示されます。

USB [TO HOST] 端子 使用時のご注意

USB [TO HOST] 端子とコンピューターを接続するときは、コンピューターや本機の停止（ハングアップ）によるデータの損失を防ぐため、以下のことをお守りください。

ご注意

- USB ケーブルは AB タイプをご使用ください。ただし、USB3.0 ケーブルは使用できません。
- 本機の電源を入れる / 切る前や USB ケーブルの抜き差しをする前に、以下のことを行ってください。
 - すべてのアプリケーションを終了させてください。
 - 本機からデータが送信されていないか確認してください（鍵盤の演奏やソングの再生で、本機からデータが送信されます）。
- 本機の電源を入れる / 切るときや USB ケーブルの抜き差しは、十分な間隔をおいて行ってください。

コンピューターや本機が停止したときは、アプリケーションやコンピューターを再起動するか、本機の電源を入れ直してください。

USB [TO DEVICE] 端子 使用時のご注意

USB [TO DEVICE] 端子に USB 機器を接続するときは、端子の形状を確認し、上下の向きに注意して差し込んでください。また、以下のことをお守りください。

■ 使用できる USB 機器

- USB フラッシュメモリー
- USB クラスコンプライアント対応の MIDI 機器（USB MIDI キーボードなど）
- 動作確認済みのヤマハ MIDI 機器

上記以外の USB 機器（USB ハブ、マウス、コンピューターのキーボードなど）は、接続しても使えません。動作確認済み USB 機器については、下記ウェブサイトの「資料／データ」から確認できます。ご購入の前に確認ください。

サポート・お問い合わせ：<https://jp.yamaha.com/support/>

本機では、USB2.0 ～ 3.0 の機器がご使用できますが、機器への保存や機器からの読み込みにかかる時間は、データの種類や本機の状態により異なりますのでご了承ください。

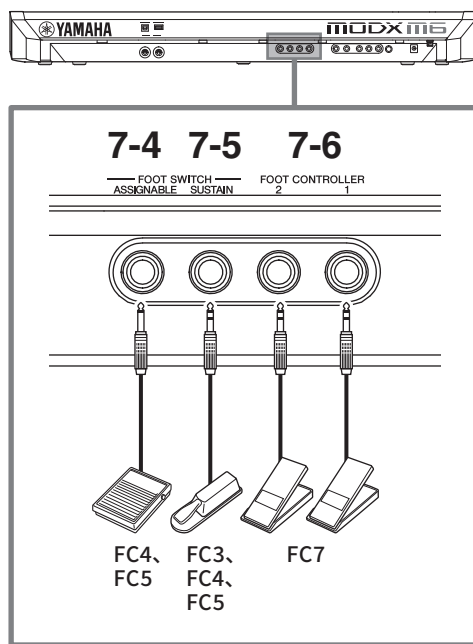
使用できる MIDI 機器の詳細や接続時の設定や動作については、オペレーションマニュアルをご参照ください。

ご注意

- USB [TO DEVICE] 端子の定格は、一端子あたり最大 5 V/500 mA です。定格を超える USB 機器は故障の原因になるため、接続しないでください。
- USB ケーブルは AB タイプで、3 メートル未満のものをご使用ください。
- 再生や録音中、ファイル操作中（保存、コピー、削除、フォーマットなど）、および USB フラッシュメモリーへのアクセス中には、USB フラッシュメモリーの抜き差しを行わないでください。本機の機能が停止したり、USB 機器やデータが壊れたりするおそれがあります。
- USB 機器の抜き差しは、十分な間隔をおいて行ってください。

NOTE

USB 機器の取り扱いについては、お使いの USB 機器の取扱説明書もご参照ください。



7-4 FOOT SWITCH [ASSIGNABLE] 端子

7-5 FOOT SWITCH [SUSTAIN] 端子

フットスイッチやサステインペダルを接続します。

FOOT SWITCH [ASSIGNABLE] は、別売のフットスイッチ FC4 や FC5 を接続し、サステイン以外の機能を割り当てることができる端子です。たとえば、ライブセット画面でパフォーマンスを切り替えたりできます。

FOOT SWITCH [SUSTAIN] は、別売のフットスイッチ FC3 や FC4、FC5 を接続し、サステイン専用で使う端子です。

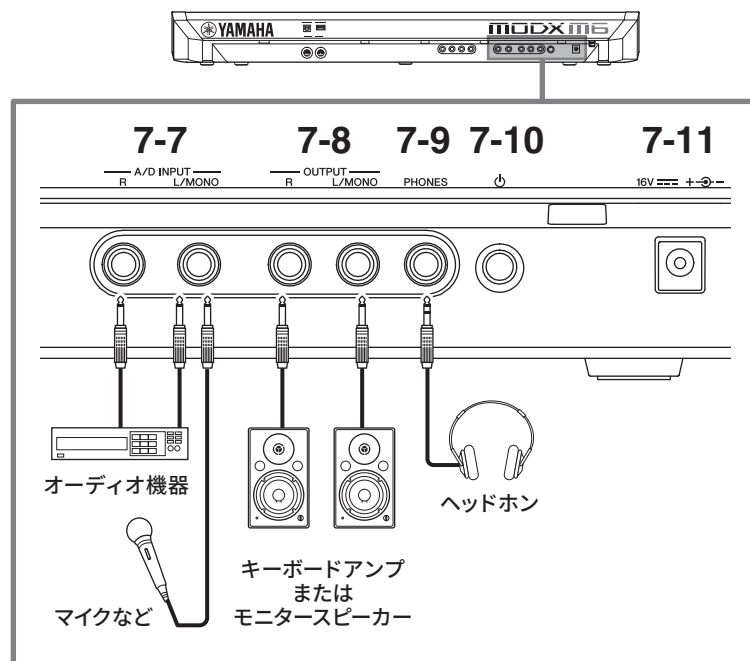
NOTE

本書では、FC3A などの FC3 相当品と FC3 をまとめて「FC3」、FC4A などの FC4 相当品と FC4 をまとめて「FC4」と記載します。

7-6 FOOT CONTROLLER 端子

別売のフットコントローラー FC7 を接続します。

パートエディットでさまざまな機能を割り当てることで、音色、音量、ピッチなどを足元でコントロールできます。



7-7 A/D INPUT 端子

本機へ外部オーディオ信号を入力するための標準フォーンジャックです。接続にはモノラル標準プラグを使用します。

ステレオ機器は[L/MONO]端子と[R]端子の両方に接続し、モノラル機器は[L/MONO]端子にのみ接続します。入力音声はオーディオ入力パートとして再生されます。

また、本機に搭載されているボコーダー機能を使用する場合は、マイクを[L/MONO]端子に接続します。さらに、エンベロープフォロワー機能やオーディオビートシンク（ABS）機能を使用する場合も、この端子を使います。詳細はオペレーションマニュアルをご参照ください。

NOTE

アクティブタイプのギターやベースを接続するときは、直接接続できます。パッシブタイプのギターやベースは、エフェクターを介して接続してください。

7-8 OUTPUT 端子

本機のオーディオ信号を出力する標準フォーンジャックです。モノラル出力したい場合は、[L/MONO]端子だけに接続します。

7-9 [PHONES] 端子

ヘッドホンに接続するステレオ標準フォーンジャックです。常にOUTPUT端子と同じ信号が出力されます。

7-10 [⏻] (スタンバイ/ オン) スイッチ

電源のスタンバイ(■)/オン(■)スイッチです。

7-11 DC IN 端子

付属の電源アダプターを接続する端子です。

ステータス確認と基本操作

トップパネル上のボタン、スライダー、画面などからステータスを確認できます。

データダイヤルやボタンを使ったり、LCDに直接タッチしたりすることで、画面の切り替えや設定変更などの基本操作ができます。

ステータス確認

トップパネル表示

トップパネル上のボタンは、明るさや色で操作対象が確認できます。

明るさ

ボタンの明るさには3段階あります。

状態		説明
	点灯	対象の設定や機能が、アクティブまたは選択されている状態
	半点灯	対象の設定や機能が、一時的に無効または選択されていないが使用可能な状態
	消灯	対象の機能や設定が、無効または選択されていない状態

色

スライダーのスリットやボタンの色は、操作対象によって変わります。

スライダーのスリット

色		操作対象
明るい青	cyan	Internal パート
黄	yellow	エレメント、ドラムキー、オペレーター、オシレーター
赤	red	オーディオ
青	blue	External または DAW Remote モードのパート

ボタン

色		操作対象
明るい青	cyan	ライブセット、パートセレクト
ミントグリーン	mint green	カテゴリー
黄	yellow	エレメント、オペレーター、オシレーターセレクト
白	white	リアルタイムコントロール
マゼンタ	magenta	ミュート
赤	red	その他

ここでは、画面に常時表示されるナビゲーションバーについて説明します。

ナビゲーションバー



1 HOMEアイコン

トップパネル上の[PERFORMANCE (HOME)]ボタンと同じ機能です。タップすると、パフォーマンス画面（ホーム画面）が表示されます。

2 EXITアイコン

トップパネル上の[EXIT]ボタンと同じ機能です。タップすると、1つ上の階層の画面に戻ります。

3 INFORMATIONエリア

選択中の画面名やパート、エレメント、オペレーター、オシレーター、ドラムキーなどの情報が表示されるエリアです。▼をタップすると、パートやエレメント、オペレーター、オシレーター、ドラムキーを切り替えられます。

● ノーマルパート

ノーマルパートが選択されているときは、このエリアの右側にエレメント、オペレーター、オシレーターの状態が表示されます。

ミュートのときは、番号の下にMアイコンが表示されます。

	エレメント 発音中のエレメントは番号の下に●が○に点灯します。ペロシティーによって鳴らすエレメントを分けているときなどに、どのエレメントが鳴っているかを確認できます。
	設定されているエレメントの総数 鳴らしているエレメントの音量をインジケータで表示
	オペレーター
	オシレーター

● ドラムパート

ドラムパートが選択されているときは、このエリアの右側にドラムキーの状態が表示されます。

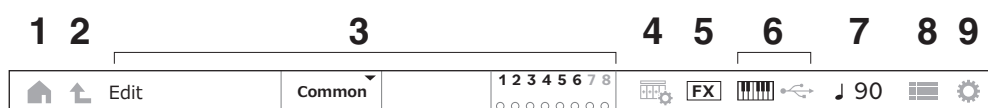
	設定されているドラムキーの総数 鳴らしているドラムパートの音量をインジケータで表示
--	--

4 VIEWアイコン

パフォーマンス画面のビューを選択できる機能です。タップすると、パフォーマンス画面のビューリストが表示されます。

5 EFFECTアイコン

タップすると、エフェクトスイッチ画面が表示されます。インサクションエフェクト、システムエフェクト、マスターエフェクトのいずれかがオフになると、消灯します。



6 QUICK SETUP アイコン

タップすると、MIDI IN/OUT 画面が表示されます。

	ローカルコントロールのオンオフを表示 アイコンが点灯しているときはオン、消灯しているときはオフの設定です。
	MIDI IN/OUT 設定が、MIDI のときに表示
	MIDI IN/OUT 設定が、USB のときに表示

7 TEMPO SETTINGS アイコン

現在選択されているパフォーマンスのテンポが表示されます。タップすると、テンポセッティング画面が表示されます。

8 LIVE SET アイコン

タップすると、ライブセット画面が表示されます。

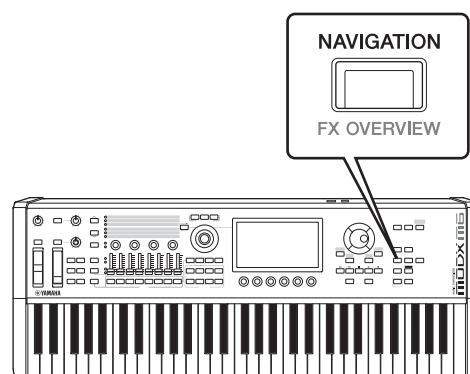
9 UTILITY アイコン

タップすると、直前に開いたユーティリティ画面が表示されます。

ナビゲーションボタン

楽器全体の構造をフロー図で表現した「地図」が表示されます。

地図の中から編集したい場所を選ぶと、その機能の詳細設定画面が表示されます。



パフォーマンスやパートの種類

パフォーマンスやパートの種類は、フラグやアトリビュートで確認します。

フラグとは、パフォーマンスやパートが対応している音源方式についての表示です。

フラグ	意味
AWM2	AWM2 音源のパートだけで構成されるパフォーマンス AWM2 音源のパート
FM-X (1色)	FM-X 音源のパートだけで構成されるパフォーマンス FM-X 音源のパート
FM-X (2色)	FM-X のパートとスマートモーフ情報を持つパフォーマンス FM-X でスマートモーフ情報を持つパート
AN-X (1色)	AN-X 音源を使ったパフォーマンス AN-X 音源のパート
AN-X (2色)	AN-X 音源のパートとスマートモーフ情報を持つパフォーマンス AN-X 音源でスマートモーフ情報を持つパート
MC	モーションコントロールをフィーチャーしたパフォーマンス
SSS	Seamless Sound Switching (シームレス サウンド スイッチング) に対応したパフォーマンス Seamless Sound Switching (シームレス サウンド スイッチング) とは、演奏中に別のパフォーマンスを切り替えたときに、音切れなく自然につなぐ技術です (以降「SSS」と略します)。 SSS は、パート 7 ~ 16 および VCM Rotary Speaker エフェクトを使用していないときに有効です。

※複数の音源を組み合わせたパフォーマンスは、+サインを使って表記しています。

アトリビュートとは、パフォーマンスやパートの属性についての表示です。

パフォーマンスやパートを検索するときに、アトリビュートを使ってフィルターをかけることで、条件に合ったものだけを見つけることができます。

アトリビュート	意味
AWM2	AWM2 音源
FM-X	FM-X 音源
AN-X	AN-X 音源
MC	モーションコントロールをフィーチャーしたパフォーマンス
SSS	Seamless Sound Switching (シームレス サウンド スイッチング) に対応したパフォーマンス
Smart Morph	スマートモーフ情報を持つパフォーマンス
Single	シングルパートパフォーマンス (単独パートで構成されるパフォーマンス) 1種類の音を鳴らしたい場合に使います。 パフォーマンスカテゴリー検索画面ではパフォーマンス名が緑色で表示されます。
Multi	マルチパートパフォーマンス (複数パートで構成されるパフォーマンス) 複数の音をレイヤー / スプリットさせて鳴らしたい場合に使います。 パフォーマンスカテゴリー検索画面ではパフォーマンス名が青色で表示されます。
MOTIF XF	MOTIF XF のファクトリーパフォーマンス
MONTAGE	MONTAGE / MODX のファクトリーパフォーマンス
MODX M OS Vx.x	MODX M のファクトリーパフォーマンス (x.x は OS のバージョンの数字)

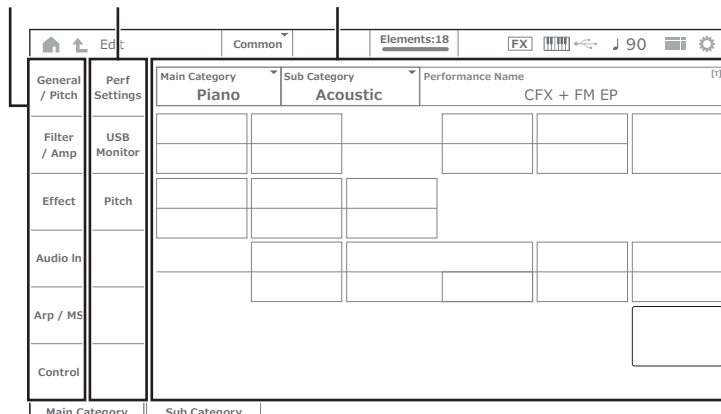
画面選択

LCDをタッチして画面を選択します。

画面左から1列めのタブを選んでから、2列めのタブを選ぶと、パラメーター表示部が表示されます。

パラメーター表示部で数値を変えたり、オンオフを切り替えたりすることで設定を変えます。

1 列めのタブ 2 列めのタブ パラメーター表示部



以下のいずれかで設定変更を終了

- [EXIT] ボタンを押す
- [ENTER] ボタンを押す
- HOME アイコンをタップする
- EXIT アイコンをタップする

操作手順の説明では、

トップパネル上のボタン（または画面内ナビゲーションバーのアイコン） → 1列めのタブ → 2列めのタブ → パラメーター表示部

の順番で表記します。

例

手順	[PERFORMANCE (HOME)] → [EDIT/🔧] → パート選択 → General/Pitch → Part Settings
手順	[UTILITY] → Settings → Sound

カーソル移動と値の変更

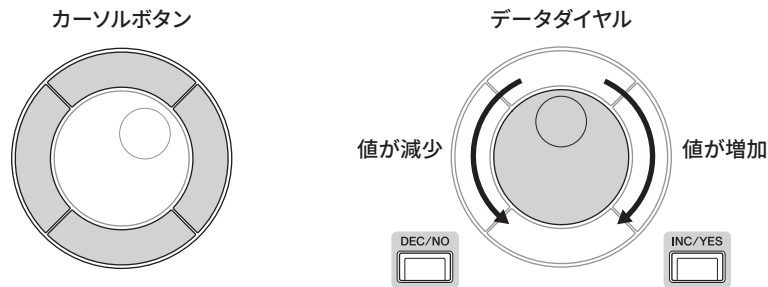
4つのカーソルボタンを使って、画面上のカーソルを上下左右に移動できます。

画面上に表示されているアイテムに直接タッチすることでも、カーソルを移動できます。

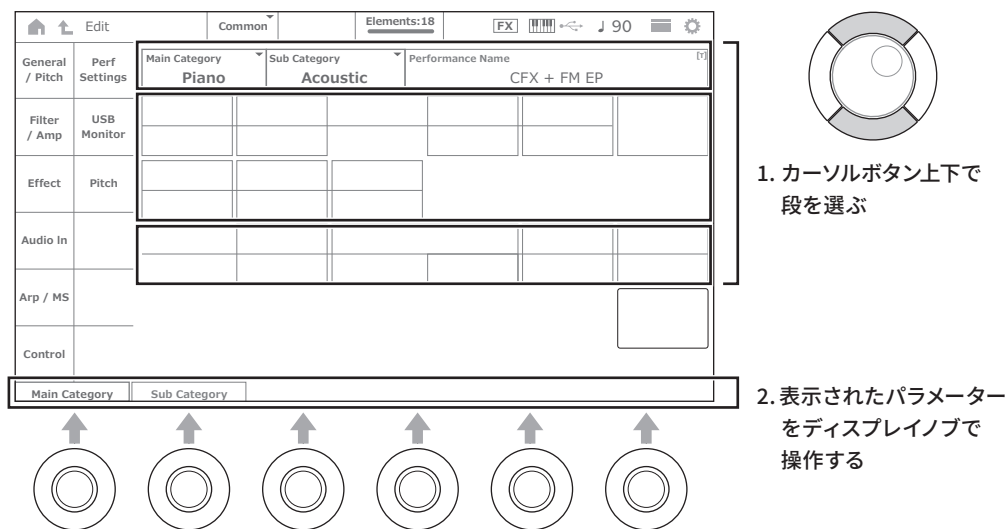
カーソル位置の値を、データダイヤルや[INC/YES]ボタン、[DEC/NO]ボタンで変更します。

設定レンジの大きいパラメーターは、[SHIFT]ボタンを押しながら[INC/YES]ボタンを押すと、値を10ずつ増やせます。

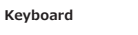
[SHIFT]ボタンを押しながら[DEC/NO]ボタンを押すと、値を10ずつ減らせます。



カーソルを上下ボタンで動かすと、カーソル位置の段にあるパラメーターをディスプレイノブで操作できるようになります。



画面操作のアイコン

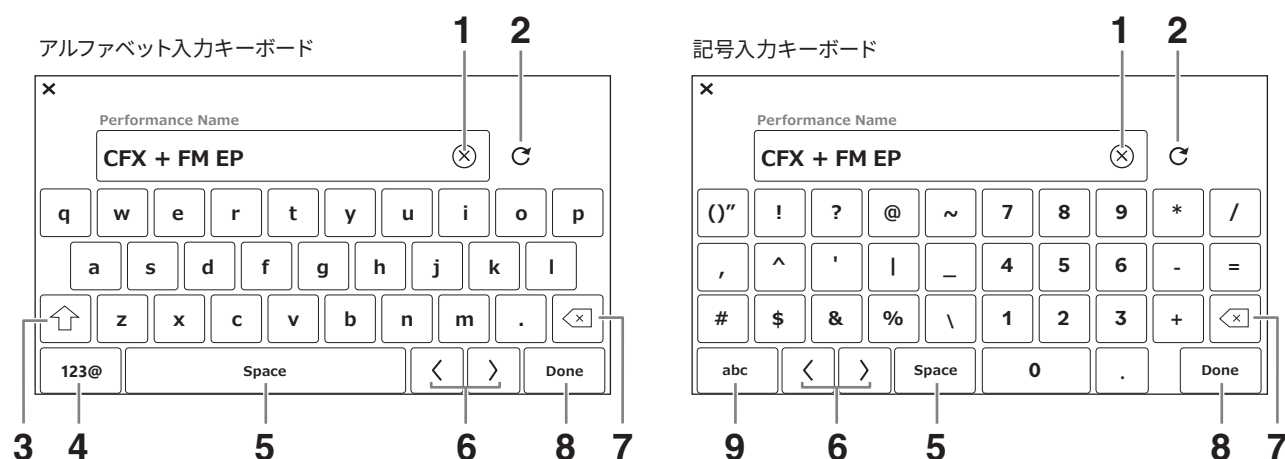
アイコン	説明
	コンテキストメニュー表示 タップすると、コンテキストメニューが表示されます。      コンテキストメニュー内のボタンをタップして、操作画面を切り替えられます。
	ポップアップリスト表示 タップすると、ポップアップリストが表示されます。選択肢が多い場合は、上下スクロールボタンが表示されます。             表示された一覧の中から、タッチして選びます。 ポップアップリストを閉じるには、トップパネル上の [ENTER] ボタン、または [EXIT] ボタンを押すか、画面のポップアップリストの外をタップします。
	文字入力画面表示
	別の設定画面に移動
	パート追加

文字入力と数値入力

文字入力

文字入力には画面上のキーボードを使います。

パフォーマンス名やソング名など、文字を入力するパラメーターの[T]をタップ、またはカーソルを移動して[ENTER]ボタンを押すと、文字入力画面が表示されます。



1	すべての文字を削除
2	入力開始時点の文字列に戻る
3	大文字と小文字の切り替え
4	記号入力キーボードに切り替え
5	カーソル位置にスペースを挿入 ([INC/YES] ボタンでも同様の操作が可能)
6	カーソルを移動
7	一文字削除 ([DEC/NO] ボタンでも同様の操作が可能)
8	文字入力を終了し、画面を閉じる
9	アルファベット入力キーボードに切り替え

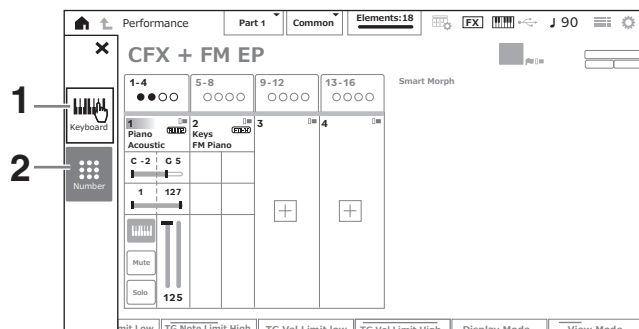
数値入力

数値入力には鍵盤か画面上のテンキーを使います。

ノート番号やベロシティを数値で入力するパラメーターを選んだときは、鍵盤を押して数値を入力できます。

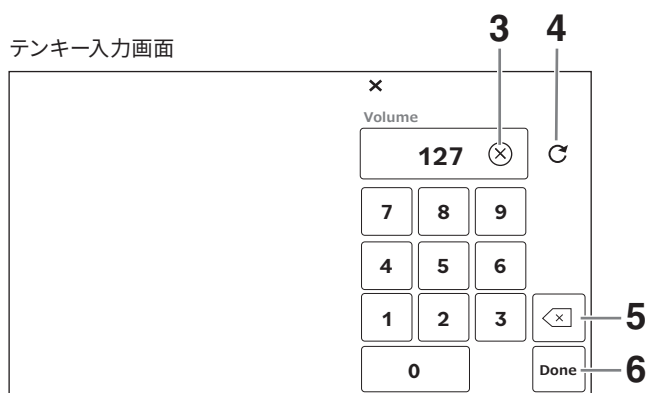
ベロシティを数値で入力するパラメーターを選んだときは、画面上のテンキーを使って、数値を入力できます。

対象のパラメーターをタップまたはカーソルを移動して[ENTER]ボタンを押すと、以下のタブが開きます。



1	鍵盤の入力が有効になる 押した鍵盤のノートまたはベロシティを数値で入力
2	テンキー入力画面が開く 画面上のテンキーで数値を入力するか、データダイヤル、[INC/YES]ボタン、[DEC/NO]ボタンで数値を増減する

テンキー入力画面



3	すべての数字を削除
4	入力開始時点の数値に戻す
5	最下位の数字を削除
6	数値入力を終了し、画面を閉じる

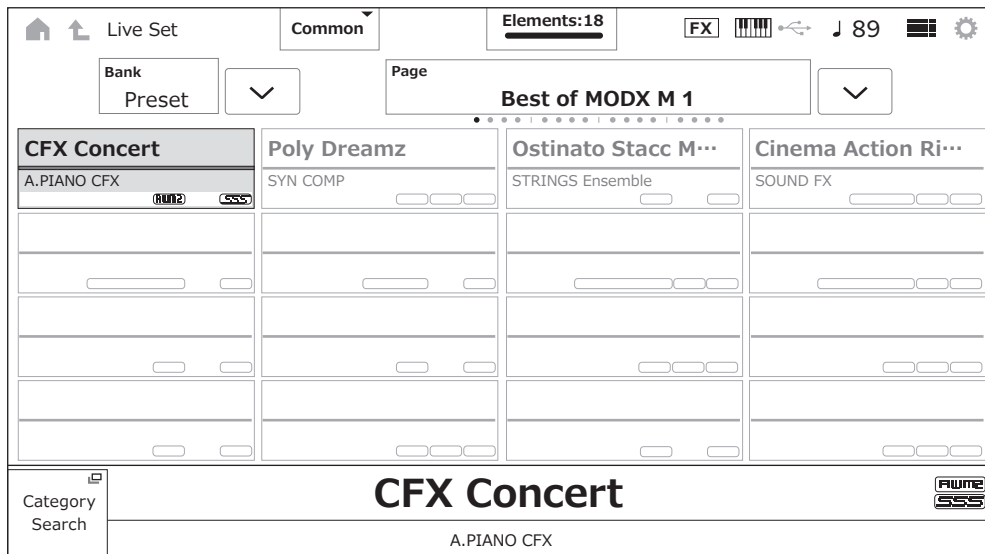
演奏する

まずは、ライブセット画面からプリセットのパフォーマンスを選んで演奏してみましょう。

ライブセット画面でパフォーマンスを選ぶ

1. [LIVE SET] ボタンを押します。

ライブセット画面が開きます。



2. 好きなパフォーマンスをタッチして選びます。

3. 鍵盤で演奏します。

パフォーマンス画面からプリセットのパフォーマンスを選んだり、設定を編集したりする方法については、オペレーションマニュアルをご参照ください。

困ったときは

「音が出ない」「音色がおかしい」などといった場合は、オペレーションマニュアルの「困ったときは」をご参照ください。USBフラッシュメモリーに設定などのバックアップ（オペレーションマニュアル参照）をしてから、イニシャライズ オールデータを行うことで解決できることもあります。それでも直らないときは、お買い上げの販売店、または巻末の問い合わせ窓口にご連絡ください。

工場出荷時の状態に戻す（イニシャライズ オールデータ）

ご注意

イニシャライズ オールデータを行うと、ユーザーメモリーに保存されているパフォーマンスやソングなどのデータ、ユーティリティ画面で設定された本機全体の設定が、すべて工場出荷時の状態に戻ります。大切なデータを失わないよう、事前にUSBフラッシュメモリーに保存することをおすすめします（オペレーションマニュアル参照）。

1. [UTILITY] → Settings → Systemで設定画面を開きます。

本機全体の設定画面が表示されます。

2. Initialize All Data（イニシャライズ オールデータ）をタップします。

確認の画面が表示されます。

中止する場合は、画面上のCancel(NO)をタップするか、トップパネル上の[DEC/NO]ボタンを押します。

3. 画面上のInitialize(YES)をタップするか、トップパネル上の[INC/YES]ボタンを押します。

イニシャライズ オールデータを行います。

仕様

鍵盤		MODX M8: 88 鍵 GHS 鍵盤 (イニシャルタッチ付き) MODX M7: 76 鍵セミウェイト FSB 鍵盤 (イニシャルタッチ付き) MODX M6: 61 鍵セミウェイト FSB 鍵盤 (イニシャルタッチ付き)
音源方式		Motion Control Synthesis Engine AWM2: 最大 128 エLEMENT FM-X: 8 オペレーター、88 アルゴリズム AN-X: 3 オシレーター、1 ノイズ
ディスプレイ		7 インチ ワイド VGA TFT カラー LCD (タッチパネル付)
接続端子		USB [TO DEVICE]、USB [TO HOST]、MIDI [IN]/[OUT]、 FOOT SWITCH [ASSIGNABLE]/[SUSTAIN]、FOOT CONTROLLER [1]/[2]、 A/D INPUT [L/MONO]/[R] (標準フォーンジャック)、 OUTPUT [L/MONO]/[R] (標準フォーンジャック)、 [PHONES] (ステレオ標準フォーンジャック)
電源部	電源アダプター	PA-300C (出力: DC 16 V、2.4 A)
	消費電力	19 W (電源アダプター PA-300C 使用時)
寸法・質量		MODX M8: 1,310 (W) × 391 (D) × 152 (H) mm, 13.6 kg MODX M7: 1,089 (W) × 347 (D) × 117 (H) mm, 7.6 kg MODX M6: 882 (W) × 347 (D) × 117 (H) mm, 6.6 kg
付属品		電源アダプター (PA-300C)、クイックガイド (兼保証書)、 Cubase AI Download Information (Cubase AI ダウンロードについて)、 Expanded Softsynth Plugin for MONTAGE M/MODX M Download Information、 About downloading manuals (マニュアルダウンロードのご案内)、Welcome カード

その他の仕様については、以下をご参照ください。

<https://www.yamaha.com/2/modxm>

本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。

索引

A

AN-X 音源	9, 37
AWM2 音源	9, 37

F

FM-X 音源	9, 37
---------------	-------

I

Init	14
------------	----

M

Motion Control Synthesis Engine	9
Multi/GM	14

S

Soundmondo	14
SSS	37

ア

アトリビュート	37
---------------	----

エ

エンベロープフォロワー	9
-------------------	---

オ

オートパワーオフ機能	11
------------------	----

コ

工場出荷時の状態	44
----------------	----

シ

シングルパートパフォーマンス	14, 37
----------------------	--------

ス

スーパーノブ	9
スロット	15

ト

ドラムパート (AWM2)	14
---------------------	----

ノ

ノーマルパート (AN-X)	14
ノーマルパート (AWM2)	14
ノーマルパート (FM-X)	14

ハ

パート	14
ハイブリッド音源	9
パフォーマンス	14
バンク	15

フ

フラグ	37
プリセットバンク	15

ホ

ボイス	14
-----------	----

マ

マルチパートパフォーマンス	14, 37
---------------------	--------

モ

モーションコントロール	9, 14, 37
モーションシーケンサー	9

ユ

ユーザーバンク	15
---------------	----

ラ

ライブセット	15
ライブラリーバンク	15

ソースコード配布について

本製品の最終出荷日から3年間は、製品のソースコードのうち GNU General Public License に基づいてライセンス供与された部分については、ソースコードを配布させていただきます。以下の住所にお問い合わせください。

〒430-8650 浜松市中央区中沢町 10-1
ヤマハ（株）楽器・音響事業本部
電子楽器事業部マーケティング&セールスグループ

ソースコードの配布自体は無償ですが、ソースコードの送料につきましてはご負担いただきます。

- 弊社（または弊社認定の関係者）以外の第三者による、この製品のソフトウェアに対する変更や追加、削除などによって発生した、いかなる損害に対しても、弊社は一切責任を負いません。
- 弊社により一般に公開されたソースコードの再利用は保証されておりません。ソースコードに関して弊社は一切責任を負いません。
- また、ソースコードは以下の URL でも配布しております。
<https://download.yamaha.com/sourcecodes/synth/>

製品登録のご案内

ヤマハミュージックメンバーズでは、お客様がお持ちのヤマハ製品をより長くご愛用いただくために、製品登録をおすすめしています。

ご登録いただくことで、お客様に合う製品やキャンペーン、イベントなどの情報を Web サイトやメールニュースでお届けします。



<https://4wrd.it/MEMBER-JP>

保証とアフターサービス

サービスのご依頼やお問い合わせは、お買い上げの販売店、またはこのクイックガイド（以下本書）に記載の修理ご相談センターにご連絡ください。

本書は、保証書の役割を兼ねています。購入を証明する書類（領収書や納品書など、製品名、品番、お買い上げ日、販売店名が記載されたもの）とあわせて、大切に保管してください。保証期間内に万一本製品が故障した場合には、本書と購入を証明する書類をご提示のうえ、お買い上げの販売店にご依頼ください。下記の保証規定に基づいて無料修理を行うこととお約束します。

[出張修理] MODX M8 / [持込修理] MODX M6、MODX M7

保証書					
製品名	ミュージックシンセサイザー	品番	MODX M	製造番号	
お買い上げ日	年 月 日				
保証期間	(お買い上げ日から) 本体 / 電源アダプター : 1 年間				
販売店名					

保証規定	
保証期間中、正常なご使用状態のもとで万一発生した故障につきましては、本保証規定に基づき無料修理いたします。	
■ 保証期間中でも以下の場合は有料となります。 - 購入を証明する書類（領収書や納品書など、製品名、品番、お買い上げ日、販売店名が記載されたもの）のご提示がない場合 - 納品後、輸送や修理時の取り扱いが適当でないために生じた故障の場合 - 提供されている各説明書や本規定に記載の注意事項に反する取り扱いによって発生した故障の場合 - 故障の原因が本製品以外の機器にある場合 - 塗装面および金属面が経年変化により退色、変色した場合 - 弊社認定の修理サービス技術者以外の者が修理 / 改造した部分で、その修理 / 改造が不適当であった場合 - 火災、地震、水害、落雷、その他の天災および公害や電圧異常による故障の場合 - 鼠害、塩害等による故障、損傷の場合 - 持込修理対象の品番でお客様のご要望により出張修理を行う場合の出張料金	■ 転居・譲渡等を伴う場合、その他注意事項 - 転居、ご贈答品等で、お買い上げの販売店に修理をご依頼できない場合には、本書に記載の修理ご相談センターにご相談ください。 - 離島および離島に準ずる遠隔地への出張修理を行う場合の交通費は実費を申し受けます。 - 保証期間内に、本製品を他人に譲渡あるいは転売された場合でも、残存期間は保証いたします。 - 本保証内容は、日本国内においてのみ有効です。 (This warranty is valid only within Japan.)
この保証内容は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。本規定によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理等についてご不明の場合は、お買い上げの販売店または本書に記載の修理ご相談センターにお問い合わせください。	

● 保証期間経過後の修理

修理によって再び使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。有寿命部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗劣化に応じて部品の交換が必要となります。有寿命部品の交換は、お買い上げの販売店、または本書に記載の修理ご相談センターにご相談ください。

有寿命部品の例 : ポリウムコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、ドラムパッドなど

● 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造終了後 8 年です。

● 修理のご依頼

本製品に異常が見られた場合は、まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、本製品の状態をお調べください。それでも改善しないときは、お買い上げの販売店、または修理ご相談センターにご連絡ください。

● 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、品番などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

販売元：株式会社ヤマハミュージックジャパン

〒220-0012

神奈川県横浜市西区みなとみらい 5 丁目 1 番 2 号 横浜シンフォステージ ウェストタワー LM 事業戦略部

* 名称、住所は変更になる場合があります。

修理に関するお問い合わせ

お買い上げの販売店または下記の修理ご相談センターへご連絡ください。

※修理をご依頼いただくときは、製品名、品番などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

◆ 修理ご相談センター



0120-149-808

フリーダイヤル

携帯電話、
IP電話からは **050-3852-4106**

受付 月曜日～金曜日 10:00～12:00、13:00～17:00
(祝日、センター指定休日を除く)

FAX

- 東日本 (北海道 / 東北 / 関東 / 甲信越 / 東海): 03-5762-2125
- 西日本 (北陸 / 近畿 / 中国 / 四国 / 九州 / 沖縄): 06-6649-9340

◆ 修理品お持込み窓口

受付 月曜日～金曜日 10:00～12:00、13:00～17:00
(祝日、センター指定休日を除く)

※お電話は、修理ご相談センターでお受けします。

● 東日本サービスセンター

〒143-0006 東京都大田区平和島 2 丁目 1-1 JMT 京浜 E 棟 A-5F
FAX 03-5762-2125

● 西日本サービスセンター

〒556-0011 大阪市浪速区難波中 1 丁目 13-17 ナンバ辻本ビル 7F
FAX 06-6649-9340

製品の仕様や取り扱いに関するお問い合わせ

お買い上げの販売店または下記のお客様コミュニケーションセンターへご連絡ください。

◆ お客様コミュニケーションセンター シンセサイザー・デジタル楽器ご相談窓口



0120-145-808

フリーダイヤル

携帯電話、
IP電話からは **050-3852-4083**

受付 月曜日～金曜日 10:00～12:00、13:00～17:00 (祝日、センター指定休日を除く)

ヤマハ サポート・お問い合わせ

<https://jp.yamaha.com/support/>



ヤマハ楽器音響製品お客様サポート
LINE 公式アカウント



ヤマハ シンセサイザー・音楽制作サイト
<https://jp.yamaha.com/mp/>

◆ 付属 DAW ソフトウェアについて

Steinberg 社のホームページをご覧ください。Steinberg 社のホームページでは、製品に関するサポート情報や、最新アップデートのダウンロード、FAQ などを下記 URL にて公開しております。

<https://www.steinberg.net/ja/>

付属 DAW ソフトウェアの [ヘルプ (Help)] メニューから Steinberg 社のホームページにアクセスできます (ヘルプメニューには、付属 DAW ソフトウェアの PDF マニュアルや追加情報なども掲載されています)。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中央区中沢町 10-1

* 都合により、住所、電話番号、名称、営業時間などが変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

MEMO

MEMO

